



あと「痕」

池末 満・画

柳川市内のトンボ観察
オニヤンマ羽化観察記
泳ぎの履歴書

柳川徒然草3
有明海の干潟で遊んだ古き良き時代
我がふるさと柳川
伝習館創立二百周年へ

懐かしいふるさとの味3
踏み出せ、前へ！
伝習館との交流

高2回の古老と現役2年生、七十の歳の差超えてトンボ共同調査を敢行!!

報告書

柳川市内のトンボ観察調査

高2・小野 善睦
(日本トンボ学会員)

種類別観察数 (2020年シーズン・5月～9月)

ウスバキトンボ …… 425	コシアキトンボ …… 139	シオカラトンボ …… 17
ハグロトンボ …… 8	コフキトンボ …… 6	ギンヤンマ …… 6
ウチワヤンマ …… 5	アオモイトトンボ …… 6	ショウジョウトンボ …… 2
オオシオカラトンボ 1	クロイトトンボ …… 1	オニヤンマ …… 1
チョウトンボ …… 1		合計 13種 618匹

- 注① 柳河の子供たちは次の様に呼んでいました。
・コシアキトンボとチョウトンボ→水兵トンボ ・ギンヤンマ→ホンナイ
・ウチワヤンマ→クワガタ
- 注② ウスバキトンボがこんなに居るとは驚きでした。子供の頃は全く気を付けて見たこともありません。毎年熱帯地方から群れをなして、はるばる太平洋を渡って来て、北海道やカムチャッカまで北上し、日本では全て死滅し、また翌年新しい群れが渡来するそうです。健気なトンボですね。
- 注③ 残念なのは、マルタンヤンマ=柳河ではヤブコシ・ヤブサガリが一匹も観察されていない事です。もう絶滅したのかな!

この調査は伝習館自然科学部(顧問・木庭慎治先生・高35)にお願いしました。木庭先生と部員の大橋壮汰君のお二人の観察によるものです。一匹だけ観察されたオニヤンマは、観察開始後、偶然、伝習館三階の生物実験室に迷い込んで来たのだそうで、奇跡的です。また部室の水槽ではオニヤンマのヤゴ一匹を飼育中でしたが、「羽化して柳川の空に飛び立った」(木庭先生)とのことでした。木庭先生は本会報前号(第21号・10頁以下)に「ニホンウナギ稚魚——」と題して特別寄稿されています。再読下さい。

大橋君は、柳川市全域に亘って、ご家族のご協力も得て観察してくれました。実は八十数年前、柳河小学校一年生の小野が、遠足で二ツ河の水道浄水場で初めて出会ったハグロトンボの幽玄な飛翔に超感激した、その近くでまた大橋君が観察……連綿と命を繋いで来たのではありませんか。

チョウトンボ一匹の観察も貴重です。ふわふわと頼りなげに飛翔するので、すぐに鳥などに捕食されます。よくぞ残っていたと感激です。以上、お二人に感謝し報告します。



チョウトンボ

オニヤンマ羽化観察記

伝習館高校2年
自然科学部生物部門部長
大橋 壮汰

伝習館高校で生物部に所属している私は、2020年10月10日に部活動の一環で福岡県みやま市に流れる日当川で生体調査を行った。日当川は岸がコンクリートで護岸されていないなど環境が整っており(写真①)、ベニトンボやコシボソヤンマ、コガタノゲンゴロウなど、希少な水生昆虫を捕獲することが出来た。さらに、私は、見たこともない大きなヤゴを捕獲した。オニヤンマである(写真②)。これまでにシオカラトンボなどのヤゴは何度も見たことがあったが、これほど大きなヤゴを見たのは初めてだったので、しばし、時がたつのを忘れ、オニヤンマに見入ってしまった。

オニヤンマに一目惚れした私は、一緒に採集をしていた同級生のテル君と相談し、部室で飼育することに決めた。

ヤゴの飼育には、エサとして学校周辺の掘割で捕獲した小魚を与えた。また、文化祭で催した水族館でも展示し、多く(?)の人が「こんなに大きなヤゴっているんだ」と驚いているのが聞こえた。



写真① 日当川の様子



写真② オニヤンマとコガタノゲンゴロウ

捕獲から1ヶ月近く経過した同年11月15日、部室へ行くと、部員が「ヤゴの様子がおかしい」と言ってきたので水槽を見ると、なんとオニヤンマが脱皮していた(写真③)。私はそれまでヤゴは茶色だと思い込んでいたが、脱皮直後のオニヤンマは神秘的ともいえる淡黄色をしており、この時ばかりは虫嫌いな女子部員でさえもうっとり眺めているように見えた(写真④)。

2021年5月20日、あるSNSでオニヤンマが羽化したという投稿を見て、部室のオニヤンマが終齢幼虫だとすれば、もうそろそろ羽化するかもしれないと思い、簡易的に羽化用の登る網を備え付けた(写真⑤)。

網を付けて4日が経過した同年5月24日、学校の朝課外が終わわり、ふと部室に立ち寄ってみると、網にオニヤンマの抜け殻が付いているのが目に入った(写真⑥)。しかし、抜け殻の周りには羽化したであろう成虫は見当たらなかった。

まだ部室のどこかにオニヤンマはいるはずだ、と思いき死に探している、窓の棧の所を見つけた。まだ羽化して間もなかつ



写真③ 脱皮中のオニヤンマ



写真④ 脱皮直後のオニヤンマ



写真⑤ 羽化補助器具



写真⑥ 脱皮殻



表紙絵「痕（あと）」高21 池末 満

第88回独立展出品作、200号。矢部川に入る楠田川の情景。タイトルの痕は描かれた亀の足あと。小学校長より贈られた「前進、たとえ亀の歩みたりとも」が浮かんだという。

- ・「トンボ観察報告書」…高2 小野善睦 & 「オニヤンマ羽化観察記」…伝習館高2年 大橋壮汰 22号 目次…………… 1

東京同窓会本部だより

令和4年 年頭の挨拶…………… 会長 白谷政則・東京同窓会総会について……………	2
学年幹事会の活動報告・学年幹事一覧……………	3
東京同窓会決算報告書……………	3
賛助金ご協力状況報告……………	4
賛助金通信欄コメント……………	5

母校便り

史上初の女性館長、葉玉千賀子氏が就任……………	6
-------------------------	---

先輩・後輩より

・泳ぎの履歴書……………	高2	小野 善睦……………	7
・柳川徒然草 その3 こうげガラス……………	高4	小野硯一郎……………	13
・有明海の干潟で遊んだ古き良き時代……………	高11	龍 勝……………	14
・わがふるさと柳川、母校創立二百周年へ……………	高5	下河 秀行……………	15
・踏み出せ、前へ ～伝習館との交流……………	高41	下河 敏彦……………	17
・懐かしいふるさとの味《今昔》 その3 野菜・果物……………	高4	荒井健之輔……………	18
・詩 斜庵先生……………	斜庵	小野 善睦……………	22
・詩 トラピスト・クッキーほか……………	高5	今村 直……………	22
・詩 八月は…… 俳句・短歌……………	高14	井上 晴美……………	23

トピックス・告知欄

・杵屋勝国さん、恩賜賞・芸術院賞受賞……………	24
・伝習館卒のシンガーソングライター Ranさんデビュー！……………	24
・東京同窓会ゴルフ同好会の報告……………	25
・加茂克也さん墓参……………	25

新刊紹介

「ふる里の話をしよう」原達郎……………	26
「大輪の椿」大沢静……………	26
伝習館生殉難之碑……………	27
◆編集後記 会報寄稿募集、広告募集、東京同窓会 Facebook ほか……………	28
◆伝美ギャラリー……………	

たのだろう。翅は光を反射して光り輝いていた〔写真⑦〕。また、オニヤンマのカッコよさを際立たせる緑色の複眼もまだ灰色をしており、灰色の複眼にもまた、何とも言えないカッコよさがあった〔写真⑧〕。

私が住んでいる柳川市は筑紫平野の一部で家の近くに山がないため、山間部に生息するオニヤンマを見かける機会がない。もはや私にとってオニヤンマは神のような存在であった。そんな憧れのオニヤンマが今、自分の手の上に！ 周りには同級生や後輩がいたが、そんなことはお構いなしでオニヤンマと2人の時間を楽しんだ。

このまま部室で飼育したいという気持ちもあったが、私が所属している生物部はニホンウナギの研究を行っているため、水槽が所狭しと並んでいる。やはり野外に放すことにした。今回飼育し、貴重な経験をさせてもらったオニヤンマは今もお、私の心の中に忘れられない記憶として今も生き続けている。



写真⑧ 羽を広げたオニヤンマ



写真⑦ 羽化直後のオニヤンマ

東京同窓会本部より

令和4年 年頭挨拶

伝習館東京同窓会
会長 白谷政則

伝習館同窓生の皆様、健やかに新年をお迎えのことと存じます。この2年は色々な面で忍従の日々でしたが一刻も早く日常の生活に戻れるよう願っています。

思い起こせば2年前、令和になり初めての正月を迎えました。この年は2020東京オリンピックの年でもありましたが年明け早々横浜港を発着するクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号で新型コロナウイルスの感染者が出て、その後はウイルス感染の2波3波～4波5波とコロナウイルスに振り回されたまま現在に至っています。世界的なスポーツイベントのオリンピック・パラリンピックでさえ異例づくしの一年延期・無観客開催となり、本来なら熱狂的に盛り上がる筈のオリ・パラも、日本が金メダル沢山取ったようだなあ、オリ・パラで感染者増えなくてよかったなあと思うくらいであまり強い印象はありません。コロナウイルスの猛威の前にはオリ・パラの記憶も薄れてしまいます。正にコロナ恐るべしです。

コロナで自粛生活が続く中、ホテルグランドパレスが昨年6月末で営業を停止しました。

グランドパレスは1972年(昭47)開業で伝習館卒業の立花盛枝先輩(中19回、開業時の総支配人でその後会長)、松永肅先輩(高5 常務取締役)に便宜を図っていただき東京同窓会では開業翌年から総会や親睦会で利用していました。伝習館東京同窓会はグランドパレスがあったからこそ格調高く続けられたのだと思っています。長年利用していると色々なサービスをしてもらうだけでなく、あれしてほしいこれしてほしいとワガママも聞いていただきました。ホテルグランドパレス関係者の皆様には大変お世話になり、深く感謝申し上げます。



今年の東京同窓会総会の開催を模索中

同窓会活動もそろそろ再開したいと考えており、グランドパレスに代わる会場として第一ホテル東京(新橋)と交渉しています。コロナ禍の中、どのような形でどのくらいの規模で準備すればいいか模索中で、コロナの状況を見ながら年明け早々判断したいと思います。

大勢で集まれない昨今、この会報が皆さんと繋がる拠りどころになっております。同窓会の行事が全て中止になり今後の活動が先細りする心配をしていましたが、会報を読み、皆さんそれぞれの高校時代を懐かしく想い伝習館でよかったと感じておられるようで、賛助金も例年通りの協力をいただいております。ありがとうございます。

これからも暫くはコロナ対策で行動は制限されると思いますが、今年こそ総会で皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。今年一年お元気でお過ごしください。

学年幹事会の 活動報告

(令和2・11～令和3・10)

伝習館関係

R2.11～会報21号発行の最終調整

R2.11～ホテルグランドパレスと打ち合わせ。コロナの発生源にならないように細心の注意を求められる。

R2.1 会長・副会長・常任幹事で令和3年の総会中止を決定する。

R3.2 総会(5/16開催予定)中止のお知らせを学年幹事に連絡。

R3.5～8 グランドパレスに代わる会場探し

R3.9 賛助金入金状況および第一ホテル東京(新橋)との交渉具合を学年幹事に連絡

R3.10 第一ホテル東京と具体的に打ち合わせ
※学年幹事会を開けないため郵送・メールで連絡を取り合っています

県人会/柳川市関係の行事は全て中止になりました。

伝習館東京同窓会学年幹事名簿 令和4年1月現在

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
第2回(名誉会長)	江崎正直	同上	福山雅文	同上	大野美佐子(山田)
第3回	酒井清行	第18回	吉田シヅカ	第36回	指田初代(藤木)
第4回	渡邊喜亮	同上	十時理展	同上	猿渡由季子(渡邊)
同上	荒井健之輔	同上	満生英二	第37回(常任幹事)	石橋泰光
第5回	岸 栄洋・洋子	第19回	芹川季代子(立花)	同上(常任幹事)	志牟田美佐
第6回	石橋 修	同上	田中茂利	同上	桑山 薫
同上	戸上軍治	第20回(常任幹事)	高巣和登	第38回(常任幹事)	金子千恵美
第7回	原田 晃	第21回(常任幹事)	西原正道	第39回(常任幹事)	高橋 徹
第8回	池田孝人	同上(会長)	白谷政則	第40回	山田雅彦
同上	一色康子	同上(編集長)	北島正常	同上	千釜洋子
第10回(編集委員)	内山秀生	第23回(常任幹事)	樋口貴美子(田上)	同上	石橋美和
同上(編集委員)	永倉素子(跡部)	同上(常任幹事)	高田健二	第41回	古賀貴統
第11回	永尾弘行	第24回(常任幹事)	酒見和平	同上	下河敏彦
第12回	小野アケミ(岸川)	第25回	稗田克彦	同上	鶴 由希子
第13回	田中利道	第27回(常任幹事)	高橋圭介	第42回	弥永邦夫
同上	尾田義昭	同上	松藤峯成	第51回	本村泰輝
同上(副会長)	原田万紗子(立花)	第28回(常任幹事)	吉開孝人	第54回	古賀智法
第14回	石橋俊一	第32回	甲斐田幸輝	第55回	龍 幸弘
同上	高木節子(堤)	同上	一木亮之介	第63回	佐藤公治
第15回	後藤民子	第33回	高椋佳夫	第65回	吉岡和政
第16回(副会長)	梶島正司	第34回	梅崎達也	第66回	池田真由
同上	水澤昭子(田中)	第35回(常任幹事)	池上英次	第67回	松尾康平
第17回	浦川邦憲	同上	土井啓郁		

東京同窓会決算報告 2020(R2)年11/1～2021(R3)年10/31

収入	郵貯	874,000	賛助金 189件
	銀行	90,000	賛助金 8件
	預け金戻入	20,000	編集委員会預け金戻し入れ
	利息	0	銀行利息
	当期収入	984,000	賛助金 197件
支出	会報発行	976,892	会報21号製作費一式(発送費用含む)
	：	20,040	編集委員会資料取り寄せ(原稿依頼)その他
	学年幹事会	2,128	コピー代
	事務用品費	10,250	切手・ハガキ・レターパック代金
	：	1,880	宅配便送料
	広告費	55,000	同窓会名簿(200周年記念)広告料
	：	40,000	伝習館大同窓会(柳川)広告料
	名簿代金	4,320	同窓会名簿(200周年記念)購入代金
	手数料	33,425	郵便振替口座手数料
	：	8,140	郵便振替通知手数料
	：	1,603	振替用紙印字サービス料
：	550	銀行振込手数料	
	当期支出	1,154,228	
当期損益		△170,228	

前期繰越金	1,672,366
当期損益	△170,228
次期繰越金	1,502,138

令和2年～令和3年度 伝習館東京同窓会決算報告

伝習館東京同窓会 賛助金通信欄コメント

【訂正】昨年の会報21号の賛助金ご協力覧に訂正がありました。高30回、橋爪政男さんは1口を2回ご協力いただいておりますので2口となります。訂正してお詫び申し上げます。

高16 梶島正司
「柳川ひと山脈」が横須賀にもありました。ピクトル古賀さん、元十両の筑後山さんの思い出はやきとり屋の老主人にうかがいました。原達郎塾長に感謝です。

高7 龍弘道
昨年NHKでふるさと柳川を拝見。御花、川下り、うなぎ飯などこの上ない楽しい番組でした。

高20 大城美紀緒
40年前出向先でお世話になった淵上純治先輩の名を見て大変懐かしくなりました。たった1ヶ月在籍した下手な水泳部員だった小生を後輩として可愛がってもらいました。

高5 今村直
賛助金1口。貧者の一灯です。

高24 松藤理恵子
会報21号ありがとうございます。素晴らしい内容ですね。荒井先輩、懐かしいふるとの味と共に、叔父中村信人の思い出も添えて下さりありがとうございます。母も大変喜んでいました。

高6 戸上軍治
会報21号ありがとうございます。伝美ギャラリイ掲載に偶然にも小中同期の春口定君の奥様春口明美さんの「海のこと」と我が同期木村松峯さんの素晴らしい作品が並んでいます。

高21 佐藤邦恵
昨年分納めたか分からないため、令和3年分と合わせて2年分です。

中55 武藤徳一
早々の会報21号拝受いたしました。伝習館東京同窓会の発展を期待します。

高5 松永悦子
いつもお送り頂き有難うございます。今のところ買い物その他家事一切を行っており元気に過ごしております。会報はこれから楽しみに拝読させていただきます。

高8 樋口誠祐
2年度会費失念しました。今回2年分(200円×2口)お送りします。活動の活性化を期待しています。

高2 江崎正直
白谷会長を中心に更なる会の発展を希望します。

高8 入部一郎
今年(令3)は終活の年になりそうです。悔いなき人生のために!!

高23 下田真知子
くっぞこ・あげまき大好きでした。今は亡き母が毎日有明海の幸を食卓に出していた。今思えば贅沢な食卓でした、あの味が恋しい。

高23 竹内幸代
会報誌いつもとても愉しく懐かしく読ませていただいています。幹事の皆様、本当にありがとうございます。

高19 野口昇
現役を退く年として穏やかな日々を送りたいと思っております。

高5 岸洋子
五十才で日本画を描き、六十才でゴルフを始め、七十才で主人の囲碁に挑戦しました。この夏、熱中症になり体力、気力も低下。「紫陽花」(巻末の伝美ギャラリイに掲載)はこの三十年で最後の作品となりそうです。

高28 山本彰子
いつも会報ありがとうございます。

高18 細川正子
毎年会報楽しみにしています。今回水泳部の伊東高校との対決、現在伊東市に住んでおり

供の水泳教室で伊東高校プールでお世話になった事もあり、記事楽しく拝見しました。これからもよろしく願います。

高35 池上英次
コロナ禍で困難な日々が続いていますが伝習館魂で乗り越えましょう。

高14 井上晴美

特別寄稿の木庭様の記述は深く納得しました。私なりに楠の木の効用には関心あり、私の育った村の神社の楠の木の存在は神々しくあの独特の香りには奥があると思っていました。万物が廻り廻って古今人間の営みそのものが時代を超え、本質的なことはさほど変わらないのではと思えること多々あります。

高22 竜美代子
お世話くださっている方々いつもありがとうございます。

高3 酒井清行
88才になりましたが、なんとか元気です。貴会のご発展をいのります。

高3 宮崎八代子

水泳部日本一の記事、改めて高校時代のあの感激を思い出しました。編集部の方々に感謝です。早くコロナが治まりオリンピックが無事開催されますように祈ります。

高4 荒井健之輔

ステイホーム続きで改めて友と顔を合わせ語り合う大事さを感じています。今年こそ皆さんと集いお会いすることを願っています。

高5 下河秀行

再来年の伝習館創立200年に当り、本当におめでとうございます。伝統と歴史のある母校が今後益々発展するよう祈念しております。

高12 横山正和

会計は毎年赤字が続いていますので少し増額して送ります。

高24 青木俊哉
賛助金5口納入します。

高5 中村義行
皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

高12 石田佳代子

高12と同期ですが1年間だけ在籍し2年から転校致しました。毎号充実した内容の会報楽しみにさせて頂いております。

高2 平河智

勝国さん人間国宝おめでとうございます。小生の家内は勝国さんのおかげで名前をいただいたと聞いております。益々のご活躍を祈ります。

高6 森清旨

前略ご免下さい。白谷政則会長以下役員の方々には、公私にご多忙の所東京同窓会活動にご尽力いただきましてありがとうございます。今後ともよろしく願ひ申し上げます。

高21 北島正常

世の全てが停滞気味で、同窓会拠点のグラウンドパレスも廃業すとか。五輪・パラも選手は頑張ってくれたが内外の観客ゼロではとても完全な形とはならず。COVID19が遠のき、良き日常が復活する日が待たれます。

高49 金見美佳

また皆様にお会いできることを楽しみにしています。

高18 江口吉光

伝習館の歴史や柳川の風俗、文化など毎回楽しく、また懐かしく読ませていただいております。

高14 高木節子

高14回卒、喜寿の年、皆元気で祝いで喜びを感じました。この度、高校同級生だった人間国宝・杵屋勝国さんが恩賜賞・日本芸術院賞を受賞されました。心よりお喜び申し上げます。

高21 白谷政則

2年続きのコロナ禍の中、前回にも増しての賛助金のご協力、誠にありがとうございます。今後ともご支援よろしく願ひいたします。

※東京同窓会の皆さん、この通信欄コメントに近況などお寄せ下さい。

母校だより

令和2年度進路実績 (令和3年4月) ()内の数字は合格者人数

国公立大学合格者 97名			
東北大学 (1)	大阪大学 (2)	九州大学 (7)	広島大学 (4)
福島大学 (1)	大阪教育大学 (1)	福岡教育大学 (2)	熊本大学 (16)
長崎大学 (10)	佐賀大学 (30)	鹿児島大学 (3)	大分大学 (4)
山口大学 (3)	宮崎大学 (1)	琉球大学 (1)	福岡女子大学 (1)
北九州市立大学 (3)	都留文科大学 (1)	岡山県立大学 (1)	県立広島大学 (1)
山口県立大学 (1)	下関市立大学 (1)	福岡県立大学 (1)	長崎県立大学 (1)
私立大学合格者 513名			
慶應義塾大学 (2)	早稲田大学 (1)	上智大学 (1)	中央大学 (1)
芝浦工業大学 (2)	産業医科大学 (医学科1) (2)		同志社大学 (11)
立命館大学 (39)	関西大学 (9)	関西学院大学 (1)	近畿大学 (12)
西南学院大学 (68)	福岡大学 (153)	など	
準大学校合格者			
防衛医科大学校医学科	1名 (1次)	防衛大学校	7名 (最終)
防衛医科大学校看護学科	1名 (最終)		

部活動等報告

令和2年度後半

弓道部

- 福岡県高校弓道新人大会兼全九州高校新人弓道大会南部予選会
〔個人〕 県大会出場 第3位 (3名)
〔団体〕 県大会出場 第4位
 - 福岡県高校弓道競技新人大会兼全九州高等学校弓道新人選手権大会兼予選会兼団体少年の部1次記録会
〔個人〕 九州大会出場 優勝
- ※九州大会は中止になりましたが認定書を頂きました。

陸上競技部

- 令和2年度福岡県陸上競技団体選考会南部ブロック予選会
兼福岡県高等学校陸上競技学年別大会南部ブロック予選会
〔女子A800m〕 県大会出場 第2位
- 2020全国高等学校リモート陸上競技選手権大会福岡県大会
〔女子800m〕 第8位
- 令和元年度福岡県高等学校新人陸上競技対校選手権大会南部ブロック予選会
〔女子400m〕 県大会出場 第3位
〔女子400mH〕 県大会出場 第6位
〔女子800m〕 県大会出場 第1位
〔女子1500m〕 県大会出場 第2位
〔女子800m〕 県大会出場 第3位
〔女子走幅跳〕 県大会出場 第5位
〔女子4×100mR〕 県大会出場 第6位
〔女子4×400mR〕 県大会出場 第3位
- 令和2年度福岡県高等学校新人駅伝競走・新人ロードレース南部ブロック大会
〔男子ロードレース〕 第4位
〔女子ロードレース〕 第1位/第2位

卓球部

- 令和2年度福岡県高等学校卓球新人大会兼第54回全九州高等学校卓球新人選手権大会福岡県南部ブロック予選会
〔男子シングルス〕 ベスト32
〔女子シングルス〕 優勝
〔女子学校対抗〕 第5位
- 令和2年度福岡県高等学校卓球新人大会兼第54回全九州高等学校卓球新人選手権大会福岡県南部ブロック大会
ベスト16
- 令和2年度福岡県総合卓球大会一般の部
〔女子シングルス〕 優勝
〔女子ダブルス〕 優勝

吹奏楽部

- 高文連筑後地区音楽会
優秀賞 「民衆を導く自由の女神」

自然科学部 生物部門

- 京都大学森里海ポスターセッション海賞
- 令和2年度福岡県高等学校総合文化祭自然科学部門 第53回福岡県生徒自然科学研究発表大会 優秀賞
- 第6回全国ユース環境活動発表大会「絶滅危惧種ニホンウナギの水槽から生命を支えられた持続可能な社会を展望する」
〔九州・沖縄地方大会〕 高校生が選ぶ特別賞 全国大会出場
〔全国大会〕 優秀賞

美術部

- 第35回福岡県高等学校総合文化祭美術・工芸部門県大会 奨励賞
- 第34回デザインコンペ 入選 3名
- 第31回絵はがきコンクール 入選 4名
- 第35回高文連令和2年度福岡県高等学校総合文化祭福岡県高校演劇大会 優良賞
- 第35回高文連令和2年度福岡県高等学校総合文化祭演劇部門筑後地区大会 最優秀賞

書道部

- 令和2年度福岡県高等学校総合文化祭書道部門地区作品選出会
〔創作部門〕 特選

弁論・放送部

- 令和2年度福岡県高校放送コンテスト筑後地区大会
〔アナウンス部門〕 入賞
〔朗読部門〕 入賞

総合部

- 第35回福岡県高等学校総合文化祭第22回吟詠剣詩舞部門県大会 優秀賞



館長着任にあたって

第四十三代館長

葉玉 千賀子

同窓会会員の皆様におかれましては、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育の充実発展のために温かい御支援、御協力をいただいております。私は今年3月末をもって県立高校を御退職なさいました。平塚健士館長の後任として、令和3年4月1日付で第43

代館長として着任いたしました。葉玉千賀子と申します。微力ながら母校の発展や一・二期生・誠実・剛健の一の校訓を胸に生徒たちが生き生きと逞しく学校生活を送り、三稜精神を身に付けることができ、ますます努力して参る所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。さて、コロナ禍により学校の存在意義が見直されたり、

一気にICT化が進んだりした中、感染防止に十分留意しながら、今年度は「再起動!」ワークワークWork Work「伝習館」をスローガンに様々な教育活動を行っています。6月に予定していた大運動会は、「コロナ禍における伝習館の新しい形での大運動会」をコンセプトに所期の目的を最大限達成すべく検討に検討を重ね、応援団、チアダンス、ダンス、人文字パネル、パッ

グボードの5種目を準備、練習から実際に演技する過程まで別々に撮影し、編集により一つの動画にまとめ上げ、皆で視聴するという従前と異なる形態をとりました。その他、修学旅行や三稜祭等の学校行事も可能な限り工夫して実施していきたくと考えています。昨年令和2年度の進路実績ですが、生徒の約半数にあたる97名が大阪大学や九州大学等の国公立大学に合格し、慶應義塾大学や早稲田大学等の私立大学にも53名が合格、医学部医学科への合格を果たした生徒もいます。将来の自己実現に向けて高い志を胸に伝習館を築立っていった後輩たちをよろしくお願ひします。

今年度も部活動の加入率は9割を超え、文武にわたって後輩たちの活躍は目覚ましいのですが、先日県教育委員会の2つの部活動に表彰状が贈られました。自然科学部は、2014年にニホンウナギが絶滅危惧種に指定された時から掘割という柳川の歴史資産を活かしてニホンウナギを保護することで地元の食文化と観光資源、および生物の多様性を守るために「柳川掘割をニホンウナギのサンクチュアリにする研究」を精力的に継続しており、これまでに日本水大賞の中の「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」、京都大学・日本財団森里海シンポジウムで森賞も受賞しています。美術部は、竹下産業株式会社の建物壁面に巨大な柳川の絵画を制作させていただいています。まだ完成はしていませんが、近くをお通りの際に御覧いただければ幸いです。

東京同窓会会報編集部より

上記は7月の「伝習館だより」に寄せられた葉玉千賀子館長(校長)の就任挨拶です。葉玉氏は200年近く続く伝習館で、初の女性館長就任(43代)となります。また伝習館高の卒業生(31回生)であり、国語科教諭として母校に赴任され、後輩の教育に携わっています。伝統の三稜精神や校風もよく理解されており、今後とも母校を好リードして頂けるよう期待しております。

先輩・後輩より

フータンヌルカはなし

泳ぎの履歴書

斜庵・小野 善睦(高2)

八十七歳の夏、また、プールに週一回の割で、通い始めた。

「小野！お前、ハヨ泳げるゴツならんとデケンゾ！小学校に入るまでに泳げるゴツなれ！」

一級上の、まこっさんからの命令である。

まこっさんは、近所の小学校入学前の男の子たちを率いる、私より一つ上のガキ大将である。いつも五、六人の手下を引き連れて町の内外を遊び回っていた。

三歳頃まで、家の中でばかり遊んで、一步も外に出ず、おばあちゃん子だった私を心配した母が、ある日片手に私の手を引っ張り、もう一方の手には砂糖をまぶした梅干の入った瓶を持ち、田圃道を走り回っていたまこっさんの処へ連れて行って、仲間に入れてくれるよう懇願した。手下の四・五人にも梅干しを一個ずつ配り、お願いした。酸っぱい顔をしたまこっさんが苦笑いしながら承諾した。

以来、小学校を卒業するまで、まこっさんの子分の一人になった。

遊びの縄張りには、主に近所のお寺の墓地だった。ケーレッツサン(桂林寺)、ミヨウキヨツサン(妙経寺)、玉樹院、台照院、報恩寺、西光寺、良清寺、光樹寺、テンソツサン(天叟寺)、エンマサン(瑞松院)、西琳寺など、徒歩五分以内の縄張り内に何と、十一ものお寺があった。残念ながら現在、この内七つのお寺の敷地を4車線の新設道路が縦断し、昔の自然や面影が失われた。

お寺にはいろいろな獲物がある。梅、桃、柿、ぐみ、ビワ、夏ミカン、キンカン、ザボン、石榴、柿、等々。

酸っぱかったり、渋かったり、甘かったり。青梅や夏ミカンは特に酸っぱくて何回も「歯が浮く」状態になった。

柿の実には、高い木の梢に実るため獲り難く、天敵のムクドリが啄む前に獲らないといけない難物だったが、暗紫色で果肉がザラメ糖状でとても甘い。ビワの実も甘かった

が、自然に育ったビワは果実が大きくて果肉が少なく、苦勞して獲る程の目標ではなかった。

いずれもお寺で手入れして育てて居る木ではなく、墓地や道路との境界に自然に育った木々のみを狙い、庭や境内の木の実を襲わないキマリ？だった。

妙経寺で、木に登って、柿の実を盗っている最中、いつの間にか、真下に和尚が立っていて、大声で「コラッ！」

と一喝された。てっきり折檻されるものと覚悟したら。続けて

「おい！俺の分も獲ってくれよ！」

と言われて、四・五ヶ、投げあげたら、無罪放免となり、拍子抜けしたこともあった。以後、その和尚とは仲良くなり、性教育などして貰った。

小学生になると、みんな、長さ十五〜二十位の鞘に入った刃先六〜八位の小刀や、肥後守という柄も鉄製の折り込

み式の小刀を持つようになる。これがいっばしの男の子になったステイタスであった。

これらを器用に使って、墓地の色々な種類の竹で、竹トンボ、竹鉄砲(押し鉄砲)、水鉄砲等を作る。ちゃんと竹鉄砲の弾に合う大きさの木の実(名前を忘れた)も実っていた。

太さが一位の股になった(Y字状)の木を枝を切りゴム鉄砲も作ったが、Yがきっちり左右対照の枝でないとうまく弾が飛ばない。それを見つけたのが一苦労だった。

みんなは上手だったが、私は不器用で下手で、皆に笑われながら、手伝って貰ってやっと出来る有様で、小学校でも「工作」の時間が最も苦手だった。

戦時下だったので軍国少年で、遊びも「兵隊ナンゴ」である。ナンゴとは、ゴツコのこと。女の子はお茶ナンゴ(ままごと)等。

当然まこっさんが大将で、時には元帥になり、帽子にスキの穂先を飾り、胸に勲章状の草を張り付けて、号令をかける。整列させたり突撃させたり、竹竿が鉄砲になったり刀になったり。動きが鈍いと整列させられ、連帯責任とかで全員にビンタを喰らわされる。それはいいけどその殴る役目は、何故かこの時は「長幼の序」を重んじて、中将に任命されていた私が指名される。トシは上でもチビでヤセで「飢饉年のカマキリ」という不名誉な渾名を貰っていた位だから、年下の部下の方が体格が良い。殴るのを手加減していると、元帥の叱責が来る。ほん



松石安兵衛著「柳川方言総めぐり」より

に、ジュツナカッタバンモ!

ある時、西琳寺の前の道でゼーゴンバブの一団と遭遇した。こちらも四、五人、相手も四、五人、忽ち睨み合いで、喧嘩が始まった!

ゼーゴンバブは、在郷のワル餓鬼¹¹田舎者の悪さ坊主、と言う程の意味で、柳河町以外の子供への蔑称である。本来、西琳寺は当時、沖端村筑紫町?で柳河小でなく矢留小の学区内であった。

こういう場合相手が一人であれば喧嘩にはならないのだが、お互いが同数位の一団だと、喧嘩になる。

取っ組み合いが始まる寸前に、相手が少しづつ後退し、道路の小石を投げながら逃げ出した。勝ったぞ!と思った時、相手の投げた小石が、我々のすぐ傍らの生垣の蜂の巣に命中し、蜂の群れが飛び出して来て、我々の仲間が頭や顔や腕を刺され、イタイイタイ!連れていた犬も刺されて一瞬位跳び上がり、地面を転げ回っている。散々な目にあつて各自、家に飛んで帰り薬を塗つて貰つた。相手は逃げて行つて、喧嘩には勝つた?が勝負は惨敗?であつた。

ターザンごっこ?もやつた。大木の枝の間に数枚の板と筵を敷き、周囲を筵で覆つた巣?小屋?を作る。藁などで、ぶらんこを作つたり、木と木の間を飛び移つたり。獲つた木の実の獲物や家から持参したお菓子やおにぎりを小屋の中で下界を眺めながら食べる。

〈閑話休題〉

裏堀

親分の命令はゼッタイだ。

生まれ育つた糞屋町の南、鍛冶屋町との境に、幅三〜四^尺、深さ一〇〜三〇^寸位の堀の石橋があり、その下流の兩岸に汲ん場があつた。

先ず、その汲ん場の間を足で蹴つて向う岸へ渡る。浅いから溺れる心配はない。これを何回も繰り返しているうちに泳げるようになった。でも、犬掻き泳ぎで、すぐに立てる深さの堀でしか泳げない。臆病モンだった。

当時は、こんな裏堀でも水は澄んでいて。橋の上から見ると、ピンチヨコや小鮒やハヤや手長エビ、縞ドジョウなどが見えた。雨が續くと水嵩が増し、橋の上流に、おっちゃん達が蜘蛛手網(四手網)を仕掛け、鯉や鮒やハヤ、時には鰻を獲つた。

少し下流の方では近所のお父さんが息子や娘を、おんぶ紐で物干し竿の先に縛りつけ、岸から流れに下し、溺れないように注意しながら、上げたり下げたりして、泳ぎを覚えさせていた。

近所の家では、一寸親が目を離れたすきに、汲ん場から落ちて溺れ死んだ幼女もいた。もつと下流の田圃の辺りは灌漑用で、幅も広く深くなり、ある時、酔っ払いのおっちゃん?の土左衛門が上がり、退役軍医のM先生が裸の遺体を検屍しながら、「コゲンヨカチンポば持つトツトに何で死んだッやるかネ」と、つぶやいていたのが、子供心に焼き付いている。

柳川では泳げる事が、生きる事の必須

条件だった。

しお川(正式は沖端川なんだが、誰も言わない)

しお川は糞屋町のT状の道路の横棒の東西の道路の北側を流れている。

有明海の潮が満ちてくる汽水の川である。縦棒の突端の北に木造の開閉橋、港橋(通称仮端)が架っている。渡ると新船津町である。(今の大門橋下流十^尺位の箇所。別写真参照)その橋の周辺が天然のプールである。

汽水は淡水よりも暖かく、おそらく母の胎内もこんなだと思えるような安心感があり、気持ちがいい。浮力が強く泳ぎ易い。しかし水から上がつてそのままだと、体中「塩が吹く」と表現したが、土壁の泥を塗つた様になる。

干満の差は五^尺位あり、干潮時には膝下位に浅くなり、川幅三^尺位。歩き回つて割れ瓦や石の下に逃げ遅れたハゼやエビ等を拾うように捕まえることが出来た。膝上位の時間は流れが急で、雨上がりなど殆んど淡水となり、鮒・ハヤ・時には鮎も流されて来る。それを狙つておっちゃん達が待網を流れに構える。待網は直径一^尺位の半円形に竹か木で骨組みを作り、それに網を張つたもの。両足をしっかりと踏ん張り、足の間に網を挟むようにして、上流に向かって立っていると獲物が入つた瞬間ピクツと足に伝わり、それに合わせさつと網を上げるのである。一度試さして貰つたが、子供は力不足で流されてしまう。

兩岸には湯が丘状に堆積し、真ん中辺はドロドロのクリーム状、岸に近づくと

連れて粘土状↓固い泥状↓石垣へとつながっている。

岸に近い方から、幅五十^寸位の湯の滑り台を作り、全体に水をかけ、ぬるぬる状にして滑る。よく点検していないと陶器やガラスの破片でお尻を切り血が噴き出す。でも潮水で洗い湯を塗りつけて置けば、すぐに血も止まり傷も治る。

湯の団子を作り泥合戦ならぬ湯合戦もやつた。右の耳に当たり、洗つたつもりが奥の方に残っていた湯が固まり、一時右耳が聞こえなくなつた。三日位して気づき、ほじくり出したが、今でも右耳の耳垢が多い様な気がする。

湯のクリーム状の箇所を掘ると、奇怪なワラスボやゴカイがにらよると出てくる。ワラスボは人の肌の皮を剥いだようなピンク色の皮をした泥鰌より少し大きく鰻より少し小さい。妖怪の様で味が悪く、すぐに放り投げた。ゴカイは釣りの餌。

注・広辞苑より

・ワラスボ(藁素坊) 11ハゼ科の海産の硬骨魚。ウナギ形で、全長30^{センチ}に達する。

有明海に産し、干潮時には泥地に潜る。食用。

・ゴカイ(沙蚕) 11ゴカイ科の多毛類の一種。全長約10^{センチ}、釣りの餌に用いる。

大きさ1センチ位の小さな土色の蟹(米つき蟹?)が足の踏み場も無いほど群がり、盛んに両方の鉗を上げて万歳している箇所もある。

葦の茂つた湯には片方の鉗が異常に大きく、色鮮やかなガネツケガネ(しおまねき)もいたが、すばしこくて捕まえら

れない。

葦原ではギョギョセン（行々子・ヨシキリ）が煩く鳴き続ける。木々のワシワシ（クマゼミ）と共に柳川の夏の二大騒音である。

一抱え位の石の下の潟がミルク状のドロドロで、いつも大鰻が潜んでいる巢を発見したが、ぬるぬるした太い体には何回も触れるけれども、掴み上げられない。逃げられてばかり。

一度は、鍛冶屋町の二つ位年下の通称アブアブ君（彼は口が効けない聾啞者。身振り手振りで話は通じる仲良しの魚獲り名人）にひよいと横取りされて、とても悔しかった。

年上のアンちゃん達は薙刀状の先に鈎のついたうなぎ掻きで潟の中を掻き揚げて鰻を獲っていた。

だんだんと潮が満ちてくる時がハゼや



エビの釣れる絶好の時間帯である。餌は先程のゴカイや縞ミミズ。縞ミミズは蟹町のふくとく綿屋の古綿捨て場で育ったのが絶品で、綿工場のおっちゃん達に叱られながら盗み掘りした。良く釣れた。この時の塩川の獲物が、我が骨肉の大部分を形成していると思う。文字通り母なる川である。

「龍の川」ですね！

これは生まれて初めて、川に潮が満ちて来る様子を、宮地嶽神社の近くの土手で見たと観光客女性の第一声。

言い得て妙！

濁った潮水がひたひた、ぴしぴしと岸の干潟を登るように寄せて来る様子が、龍が何本もの手足を伸ばしながら川を上って来る姿に見えたらしい。

子供の頃、お盆八月十五日の夜の精霊流しは一大ページェントだった。

精霊舟は

藁で作って

ある。例え

ば蟹町の石

屋さんの初

盆の舟は長

さ約三呎、

幅一呎、上

部に木製の

屋形を組

み、周囲に

提灯を沢山

吊るした豪華なものだ

った。若い

衆十人位が

塩川に運び、夜の満潮時に流れに押し出し火をつける。他にも、小さな孤舟など大小の沢山の精霊舟が、南は蟹町の方から北は本船津町の方から、出の橋と仮橋の間に押し出され、一斉に、大きな炎を高く上げて、炎々と燃え盛る。

ひととき燃え上がった舟は、少しずつ下流に向かい、橋の下に来る頃は水をかけて火を消し、行事は終わる。遺族や見物客は岸の石垣や橋の上から見送り、また静寂な夏の夜が戻る……やがて哀しき祭かな、である。

現在はこの行事は禁止されている。もう二度と見ることは出来なくなった行事である。

—精霊流しについては蟹町出身の北島憲一著『どろつくどん』（一九八五年八月刊）からも抜粋、絵も紹介する。

（前略）お盆の仏前には孤敷に載せたお供え物を供える。十五日の夕、孤敷の両端を丸めて紐括りをし、両端に細い添え木をして二等辺三角形に添え木を括る。

孤敷の中央を広げると小型の舟が出来る。お供え物を袋に詰め満載する。添え木の交差点には絵模様入りの小さい提灯を吊り下げて塩川に流す。先端に線香も

供える型の精霊舟が何百艘も川に浮び、ゆらぐ蠟燭の灯に絵模様映える。

初盆の家庭ではもともと豪華なお舟が作られる。青竹を芯にして舟形を作り、麦藁で包み込む。長さ約三呎、幅一呎の麦

藁舟である。麦藁は一本ずつ皮を剥き、舟の表面を覆ってしまう。甲板は二階作りとし、軒先は小提灯、舟縁には、ボン

ボリがつけられる。櫓も舵も船頭さんも

麦藁作りである。船尾には『西方丸』と書いた旗指物がたなびく。船体には鮑屑を固くなるまでに詰め込む。

盆の三日間は初盆の家の前に、バンコ（縁台）に飾られ観覧に供せられた。

精霊舟流しに先立って花火を打ち上げるのが通例だった。（中略）

小舟は静かに潮の流れに乗って去ってゆく。その合間を縫って、大舟が先着順に花火・舟と一緒に運ばれ、揮一つの若衆たちの手によって、バンコもろとも川面に浮かべ、少しばかりの灯油をかけ、火をつけられ燃え上がる。火の粉が天高く舞い上がる。芯に仕込んだ青竹がパチパチと爆ぜ、夜空にこだまする。出の橋から下流へ数百呎、夜の不夜城が出現する。荘厳華麗な光景である。

川の両側の家々は、二階の建具を取外し、親戚・友人たちを招待しての見物である。（後略）

愚考するに、私が見た頃は戦時下で物資や若い衆も段々と減り、北島さんの著述の時期に比べ行事が縮小されてきていた。それでも七十年余、脳裏に焼き付いている豪華絵巻だ。

翌日の満ち潮時は、河童たちの出番である。昨夜の精霊舟の何艘かが、満ち潮に乗って、半焼けの姿で流され戻されて来る。有明海まで行ったのか？海までいけなかったのか？

狙いはお供え物の数々だ。

まんじゅうやお菓子は腐りかけてヤバイ。狙いのは西瓜が最高だが、滅多に無い。多いのはカシウリ（菓子瓜）まくわ瓜）だった。井戸で冷やし、前述の樹上



「どろつくどん」の挿絵より

手摺から飛び込むのであるが、水面までは2メートル位、大将まこっさんが率先垂範して見せる。まこっさんだけは橋桁の更にも上の開閉橋（写真参照）の最上部の横木の上まで登って飛び込むことが出来る。それも頭から飛び込む「ガメイリ」（亀入りの訛？）である。その勇敢さには、皆びつくりし尊敬する。今でも水泳の「高飛び込み」競技を見る度にまこっさんの雄姿が浮かぶ。

「唱歌 鴨越え？」の歌詞

♪大将義経真つ先に！

の小屋でかぶりついた。
満潮時の仮橋の下は、深さ五メートル位、川幅も二十餘位になり、大河の様相を呈する。流れは静止し、泥水のプールとなる。

♪水は満々 流れは洋々

わだつみか岸辺も見えず

……

滔々洋々 とうとうようよう

その頃、小学校で習った揚子江の歌？である。

自由に泳ぎ回り、クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・横泳ぎ・バタフライ等々が、沢山潮水も飲み、出来るようになる。

メンパーも皆小学生になった。

橋の上からの飛び込みも始まる。橋の

そのものである。部下たち

はせいぜい橋の手すりからの飛び込み。

それも足から飛び込む「ゴンポイリ」

（牛蒡入り？）しか出来ない。怖いから、

てんでに大声で呪文らしきものを大声で叫びながら飛び込む。

♪綿屋のデンパツアン頭が光る、ど

こが顔やらイッチョン判らん！

♪ウンベ産まれたキジ猫がおタキさん

の○○に嘔みちいた！

♪カモンサンのキンタマ フレーフレ

ーフレー！

まだほかにもあつたが、忘れた。要は自分を奮い立たせるための掛け声である。意味はない。

水郷柳河写真集「水の構図」より「開閉橋」
詩歌・北原白秋 写真・田中善徳



水葦むらや

開閉橋に落つる日の

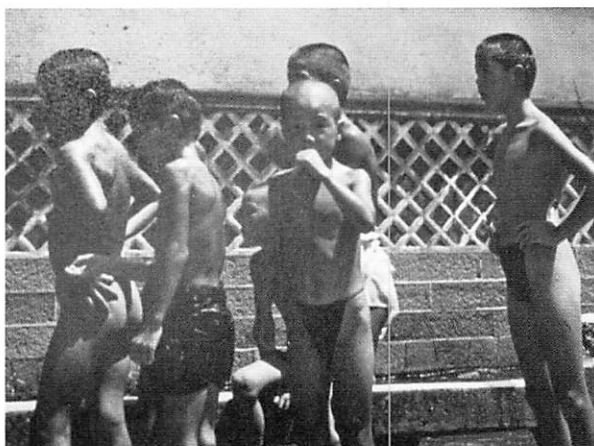
夕風にして

行々子鳴く

北原白秋

引き潮が始まると、だんだん流れが速くなる。平泳ぎで一掻きすると二十餘位進む。ある日まこっさんと二人で、大冒険？をした。引き潮に乗って急流を泳ぎ下るのである。「流木に気をつけろ！」と言いなながら気持ちよく流れに乗って、筑紫橋をあとと言う間に過ぎ、三明橋まで5分位で着いた。今地図で図ると、直線距離で二キロくらい、時速三十キロで泳いだことになる。

楽しくて、半分怖くて、達成感もあった



イッチョベコの少年たち

水郷柳河写真集「水の構図」より「童」

詩歌・北原白秋 写真・田中善徳

だが、帰路が大変である。ヘコイッカン（禪一ツ）で体中塩を吹いている。白秋さんの家の前など、沖の端町の繁華街を通らねばならない。じろじろと見られて、恥かしくて、2回やって終りにした。
小学生の頃の夏の制服は、朝から晩までヘコイッカン。ヘコと言っても股間に三角の布切れが付いているだけのイッチョベコ。（写真参照）
中学生になる頃やつと、六尺禪を縮めるようになる。少し誇らしい。
塩川の欠点は、遊んだあと井戸か水道で入念に体を洗う必要がある事。又男の子だけで女の子は絶対泳がない事だった。

飯橋の上から下流の西の方を眺めると多良岳が見える。夕空が美しい。この風景は故郷を離れた後も脳裏に刻まれていて、辛いとき、悲しいとき、苦しいとき、折に触れて元気をくれた。

上流の東の方には出の橋、その向こうになだらかなキヨミツツアンヤマ（清水山）が見える。時には上妻夕立も望まれる。（コウズマユウダチ。矢部川上流地方に降る夕立。気色だけで何の影響もない。転じて虚勢を張ることの例え）

橋の南の袂に火の見櫓があり、上ると一直線上に糶屋町から鍛冶屋町への南北の道路と両側の低い家並み、その先に天叟寺さんの山門、そのまた先の遠くに雲仙岳が一望出来た。

月天心貧しき町を通りけり 蕪村
月夜の糶屋町の景が浮かぶ。

夕方から夜にかけ町内の老若男女が橋の上に集まる。夕涼みである。バンコに座りウチワと浴衣姿。縁台将棋やギターやアコーディオンやハーモニカの下手な演奏が始まる。

お蔭で将棋は二段。歌謡曲で最初に覚えたのは田端義夫の「帰り船」、次に近江俊郎の「湯の町エレジー」等々。古賀メロディーは殆んど歌える。

シオ川は私の第一のまほろばである。

ナカユビ（中井樋）

本当はナカイビなのだろうが、ナカユビと呼んだ。飯橋を渡り新船津町を5分ほど歩くと、当時は三橋村枝光の小坪橋に着く。橋の下に井樋があり、上流は淡水、下流は汽水である。

橋の袂を上流へ、岸の畦道を行くと、そこがナカユビ。堰があり、下流の中坪橋との間が、三十餘位、幅十餘位の池状の天然のプールになっている。南岸に二、三本の柳が垂れ、北岸は田圃、その先を国鉄佐賀線の列車が、のんびり、ゆっくり走り行く。

堰のカミの堀は、今、観光川下りのドンコ舟の発着する三柱神社の欄干橋の下位の幅の、大きな堀で、深く淀んでいる。外町から矢加部小学校の前の方まで続いている。最北のお城の外堀と、灌漑用を兼ねていたのではないか。

堀いっぱいにはウオーターヒヤシンス（台湾藻・布袋葵）が密生。更にカミにはヒッシャンオー（菱）の群生。何度か菱の実を獲ったが、菱は藻などと同じく堀に自生しているものと思っていた。ところがこれは、お百姓さんが持ち主で、一生懸命栽培しているものと教えられ、以後、辞めた。

堰の直ぐシモの三餘位までは、子供でも立てる程浅く、その先はグンと深くなり、泳ぎの上手な子も下手な子も、それなりに遊べる。女の子も沢山来ている。前述のように「キキンドシのカマキリ」の私は、もてるわけはないが、一緒にワイワイやっているの楽しい。いつも十四、五人が喚声を上げていた。

ナカユビでは、クロールや平泳ぎ等のスピードも上がったが、モグリに夢中になった。ここは水が綺麗で誤ってカブリと飲んでも大丈夫、水中で目を開け、幾つ数えるまで沈んでいられるか試す。ほとんど長く潜れるようになり夢中になっ

た。

時折二年生の、モグリ自慢のヒロ坊が、一緒に遊んでよと、水中から足を引っ張りに来る。

高校生になり学校健診の折、校医が、私の番になったら、何度も聴診器を胸にあて、頭をひねっている。

「君は水泳部員かね？」
「肺が異常に大きいよ。大人になったら肺の病気に気をつけなさい」と。

ナカユビのもぐりが原因だと気が付いた。

六十歳位から肺に医者も判らないバイキンが寄生し、肺感染症とかで抗生薬を飲んでる。今は症状もなく仲良くバイキンを養って二十余年になる。

泳ぎ疲れると、水面上向きに、顔だけ出して、ぶか・プカッと浮かぶ。

陽が西に傾くころには、皆が帰り、静かになる。色んな雲が見える。メグロ（ボラの子）が群れを作り、さざなみを立てて水面を右往左往する。

世界中にたった一人で居るような気がする。

ナカユビは私の第二のまほろばだ。

平成五年十月刊「東京星座」38号にナカユビを舞台にした「柳川カップバ寓話・童女カップバ」を八頁にわたって掲載した。要約。

・小雨が降ったり止んだりの中、まこっさんと二人ナカユビに来た。
・4年生のタミオが汲ん場で「カップ

だ！カップバだ！と大声をあげて、堀に向かって石を投げている。タミオは泳げない。水にも入れない、図体は大きいが臆病モン。「ドゲンシタツカ？」と聞いても堀の方を指さして叫ぶばかり。

・竿2本で手長エビを釣っていたが、ちつとも釣れない。其処へバシヤバシヤと竿先の辺りで泳ぎ回るヤツがいる。石を投げたらヤツの顔に当たり額から血が出た。

・たちまち、二本の竿が堀の真ん中へ持つていかれた、と。

・分かった！とまこっさんが、飛び込み、竿を持って来ようとするが、誰かと水中で格闘になる。パッと水面に跳び上がったリ、又水中に沈んだり、浮いたり沈んだり、苦しげに口から水を吐く。やつと岸に戻って来たが竿は取り戻せないまま。まこっさんは荒い息をしながら「ヤツパ、ヤツはカップバい！」と言いながら、フラフラ、スタスタと泳ぎ場の方へ行ってしまった。水面は静かになり、時折柳の枝からパラパラッと雨の雫が落ち、二本の竿は堀の真ん中にプワッと浮いたまま。タミオと二人、汲ん場に座り込んだ。

・暫らくして水面に黒い顔が浮かぶ。じつとこちらを見ている。

・急いでタミオの頭を押さえつけ、ヤツに向かってお辞儀をさせ、私も片手を鼻の前に立て、拝むような格好で何度も頭を下げた。二人で十回位。
・二本の釣竿がスツと動いて汲ん場へ

返って来た。

翌日も泳いでいると、誰かが足首を掴んで引つ張る。ヒロ坊かと思つたが、一寸違う。ヒロ坊なら水中に急激に引つ張るのに、今日は水面に右足、左足と交互に優しく引つ張る。

泳ぎを止めてよく見ると、目の前にポツカリ昨日のカップバだ！右手を挙げて今にも襲つて来そう。まこっさんでさえ負けたヤツなので、観念して、しっかりと取っ組みせばと、覚悟を決めた。しかし、それ以上ちつとも襲つて来ない。

よく見ると右手はグーチヨキパーをやっている。なんだ、ツカメオン（鬼ごっこ）しようって合図か。

仲良くなつて、その後はカップバと一緒に泳ぎ回つた。

ヤツはモグリのやり方を教えてくれる。「水中では目を開けて、息を少しづつ吐け」と、成程！

私はまこっさんに習つた正規の？クロールや平泳ぎや背泳ぎのやり方を教えた。全部、身振り手振りだ。

くたびれて向う岸の畦道に座り込んだ。ヤツも並んで座る。よく見ると色が黒く、手足はピノキオみたいに細い。髪はトウモロコシの髭のようにチリチリで赤茶色。男女不明？

二人とも無言。間が持たなくて、立ち上がりチンポを出し、佐賀線の方へ向つてシャーと放尿。ヤツは暫らくもじもじしていたが、立ち上がると5位先の草の影にしゃがみ込んだ。もそもそとズボンかブルマーか分からない腰

の辺りをずり上げながら戻つて来て隣に座る。

ナンダ！オナゴか！

それからは毎日のようにヤツがついて来る。シオ川の魚獲りも一緒。しまいにはヤツの方が上手くなる。毎日も取り逃がすウナギの巢で悪戦苦闘していると、ドケ！とお尻で跳ね退けられ、見事2匹のウナギを獲つて見せた。獲物は帰りに均等に分ける。

或る日は、可愛い花籠に大きな手長エビを3匹入れてお土産にと。翌日お返しに、母の手作りの柳川毯をあげたら、珍しく声を上げて喜んだ。やはりオナゴだった。悪ガキ仲間たちから囃されるようになった。

♪オトコトオナゴトミソオトコ！
オナゴトオトコトミソオナゴ！

鯛雲が流れるようになったある日、仮橋で夕涼みしていると、可愛い浴衣の女の子がお父さんに手を引かれて通り過ぎ、盛んに私を指さしては、お父さんを見上げて話していた。

翌日、今度は「大日本帝国海軍」の金文字の入った水兵帽で、女の子の手を引いた屈強な水兵さんが、「いつも〇〇が遊んで頂いたそうで有難う。〇〇は母が急死してから、口が利けなくなつて、おばあちゃんに預けていたのです。最近ようやく少し話が出来るようになります。貴方とのことを実に楽しんで話してくれるようになりました。」

近く横須賀に連れて帰ります。本当に有難う。これはお礼です」と言つて、小さな包みをくれた。よ



八部衆立像・阿修羅
(興福寺)

く見ると、可愛い洋服の娘は、あのカップバだ。びっくりして良く聞き取れなかった〇〇という名前を聞き返すのも、お礼を言うのも忘れて、ポカーンとしていた。

帰つて披いてみると、手のひらに乗る位の革製コイン入れ。ロンドンブリッジの絵が型押ししてあった。ザーツと私の宝物になり、時々机の引出しから出しては眺めていた。革のいい匂いがした。

大人になって美術図鑑をめくっていると、すっかり忘れていたあのカップバにそっくりな顔の、仏像に出会った。注に「八部衆立像・阿修羅（興福寺）」とあった。

水門（シーモン）

今や柳川観光川下りの名所となった、椿原町と新町の境の水門のシモンにも泳ぎに行つた。丸い池状で水が澄んでいる。真ん中だけ流れがあり気持ちが良い。しかし少し家から遠く、ヘコイッカンでは、街中を通るのが恥ずかしく、何時の間にか、間遠くになった。

伝習館プール

昭和二十年八月九日。中学伝習館一年生だった夏休み。私は、長崎に投下された直後の、原子爆弾のきのこ雲を見た。プールから西南の方向、今でも、こっちだ！と指差せる。

その後、TV等の映像で見ると、平べったいきのこ雲とは全く違う。

雲か煙か、筒状の巨大な柱が、冲天高く、どんどん昇つて大きくなる。

中心から紅蓮の炎が噴き出し、真っ黒に、黄色に、紫色に、オレンジ色に、灰色に、急激に変化して行く。静寂の中、夏空を切り裂く様にむくむくと立ち上つて行く。

その時は原子爆弾なんて知らない。こんな光景も全くの初体験で、みんなといても、プールに居た二、三人が、「ありや何だろ！？エスカ！エスカ！」と家に飛んで帰り、何故か蚊帳を吊つて寝た。後刻、近所のラジオで

「長崎にも新型爆弾が投下された」と。あの雲の下で何十万人が灼熱地獄を彷徨っていたと思うと、心が痛む。

当時、柳川周辺でプールといえば、伝習館のプールだけだった。とはいえプー

柳川徒然草 その3
こうげガラス
高4 小野硯一郎

ルは泳ぎ難い。今のプールに比べて設備も劣悪、消毒の匂いが強烈、おまけに岸の壁面にぶつかった波が不規則に襲ってきて、ガブリと水を飲まれた。水泳部OBの酒井清行（高3）君によると、アオコ、ゲンゴロウ虫、ミズスマシ、赤虫の棲家だったと。

でも、この6年後、酒井君らの伝習館高等学校水泳部は全国大会優勝の快挙達成！このプールのおかげである。

米寿を迎え、長時間のウォーキングには時に支障を来すが、泳ぎには全く支障がない。運動不足を補うため、週1回ゆっくり500m位、泳いでいる。

柳川は水に浮ぶ廃市である。

この水の柳川こそは、我が生まれの里である。この水の構図、この地相にして、はじめて、我が体は生じ、我が風は成った。

北原白秋より
終・2021・7月記



まだ現役であちこち転勤していた頃、

故郷柳川の実家に帰って、こうげガラスを見かけると何か懐かしく感じていたが、昭和も末の頃になると、何故か筑後地方に、こうげガラスの姿が次第に少なくなってきた様な気がしていた。母に聞くと、「こうげガラスの少くのうちなつて、真っ黒の一寸大きめのガラスの増えて、ごみとか突ついてでけん」と言っていた。どうもこの黒いガラス「土鳩」とか言うのがこうげガラスといわゆるカササギ（鶺鴒）を駆逐して増殖しているらしい。

昭和の末から平成にかけて、仕事の関係で年に二、三回、十年間ばかり続けて中国に出かけていた。行き先は主に東北地方、昔で言えば満州方面が多かった。歌に残る広大な「赤い夕陽の満州」を夕方車で走っていると、道路の脇の高い木の上にもさしく鶺鴒の巣らしいものがあちこちと見られ、鶺鴒も飛んでいる。私はそれ程永く故郷柳川を離れている訳でもないのに、何か古里が思い出され、懐かしかったものであった。

かつて、戦時中に政府の勧めで「王道楽土」を求めて満州へ出かけた人は多く、特に大陸に近い九州からは多くの人達が、柳川からも沢山の人や家族が出て行った。

数十年経った今、私がこの満州でこうげガラスを見かけて故郷を懐かしく思うより、当時のこれらの人達はもっと強く故郷を偲んだであろうと思うと、心が締め付けられる気がしたものだ。

ガラスと言えば、息子がメルボルン勤務で数年家族共々彼の地にいたので、その機会に二回程十日間ばかり家内と二人で出かけて行った。滞在中休日を含んで数回一泊の小旅行をしたが、広い道路を走る途中道の脇に、色んな色をした鳥が沢山見られて珍しかった。その中に懐かしい鶺鴒の様な鳥が見られる。孫に聞いたら、即座に「マグパイでしょう」と言う。マグパイとはまさしく鶺鴒である。ただこの鶺鴒は、筑後鶺鴒に比べ幾分ずんぐり目であった。オーストラリアで見る鶺鴒



は懐かしかった。

我が家の菩提寺は片原町の光台山瑞松院であるが、その面した十八米道路側の木立には最近この黒ガラスが巣を作つて、糞を垂れ道路は真っ白、臭くて大変である。

この瑞松院にはご存知藩祖宗茂公の二番目の正室「八千姫」のお墓があるが、この瑞松院の北側の道路を挟んだ良清寺には宗茂公の最初の正室「閻千代姫」のお墓がある。八千姫は宗茂公が秀吉公から勧められて矢鳥家の息女を側室として迎えられ、その後正室の閻千代姫が亡くなられたあと、御正室になつて居られる。

瑞松院の第二十七世住職田中祇悠師（今の住職のお父親）によると、過去良清寺と瑞松院の間では、道路を挟んで夜な夜な人魂が入り乱れて乱舞していたとの伝説があると聞いたが、真偽のほどは定かでない。

柳川には他にもこんな因縁話が沢山あるらしい。

さて、我が家の前には二十米ばかりの生け垣がある。毎年春秋に自分で電気剪定器で剪定する。

この八月下旬、生垣を刈った時に気付いた事だが、今まではこの生垣の中に蝉の殻など見たことはなかったが、今回数個の殻が見つかった。更に、ついでに丸く刈った庭木の一本を少し剪定していたら、丸く傘の様になっている下側に、五つ六つの蝉の殻を発見した。こんな事も

有明海の干潟で遊んだ古き良き時代

高11 龍 勝

今までになかったことだ。今までは蟬の殻は、幾分大きな木の人の背丈より上の方に多く見られた。これは下の方だと脱皮中の短い時間とはいえ、鼈や蛇に狙われない様に高い所を選んでいたものと思われる。しかし今年が違う。むしろ蛇や鼈に狙われ易い場所だ。どうも不思議である。勿論幾分高い所にも幾らかの殻はあるが、これは少数派である。

これで考えられるのは鳥だ。ここ数年筑後地方ではびこっている大きな真つ黒の鳥（一説には土鳩とか）だ。この黒鳥はなかなか猛で鳩なども餌にする聞く。我が町内のゴミ出しは月曜と木曜であるが、その日は早朝から町内を群れを成してカア、カアと飛び回り、家庭から出る生ごみを待っている。出し方が乱雑だと直ぐに狙われる。鳥どもは各町内のゴミ出しの曜日を知らずとしか思えない。

先日、小学からの同級生で、永年柳川舟下りの船頭をして、七十四歳になる今も現役の友人に会って「黒鳥の増えて悪さしてデケンね」と話したら、「あの鳥は蟬ば食うげなばい」との事だった。成る程、蟬が今までと違い木の陰で脱皮するのは、鳥からの防衛手段であったのかも知れない。これも地球温暖化で、生物の生態が変わってきた結果だろうと、反省させられるのだが。

平成二十四年記

同窓会誌第16号（2016年）に母校の教師をされてるといふ木庭氏投稿の『有明海の現状と将来』を読んですぐさま昔の有明海について投稿しようと思つたものの生来の筆不精が災いして延び延びになつてしまつていたところに、第21号（2021年）で『懐かしいふるさとの味（今昔2）』を荒井氏が投稿されていて、やっと昔の懐かしい有明海を振り返つて投稿する決心がつかしました。

但し、私の実家は専業どころか兼業漁師でもなんでもなかったのであくまでも腕白時代の遊びの場としての記憶であり、場所も船で出かける有明海全体ではなく筑後川と沖の端川が有明海に注ぐ三角州のような遠浅の干潟で、その一部は現在は干拓地として昭南町という地名がついている一帯を指していますのでご了承願います。

遊び盛りの小学5〜6年生頃（昭和28〜29年頃）から高校前半まで位の腕白坊主には暑さ寒さに関わらず受け入れてくれた場所でしたが、やはり一番遊んだのは夏休みでした。

先ずはあげまき掘りです。当然汐が引かないと干潟に入れないので地元漁業組合の事務所まで汐時（干潮）を確認しておきそれに合わせて行くわけですが、用意する物は専用のあげまき掘り具です。これは家庭菜園等でも使用される三本鍬を縦横共に大きくし柄の部分の短くした

ようなあげまき掘りにのみ使用していた専用漁具でした。その他は掘り上げたあげまきを収納する竹籠だけで、勿論干潟で汚れた場合の替え着やタオルそして一番大事な弁当と水筒です。弁当と言っても現代のようなコンビニがある訳でもないので母親手作りの高菜漬の葉っぱで巻いただけの大きなおむすびでした。堤防の上で、汗を拭きながら食べるそれは最高に美味しかったような記憶があります。

自転車の後部席に積んで帰り母親に茹でてもらい、荒井氏も書いておられた『はかま』を取り除いた後母親に市場（沖の端の魚市場だっただろうと思えます）へ持つて行ってもらい現金化していただきました。どれほどの現金になつていたか全く記憶がありませんが貴重な小遣いになつていたことは間違いありません。勿論甘辛く煮て佃煮のようにしてご飯のお供としても食べました。

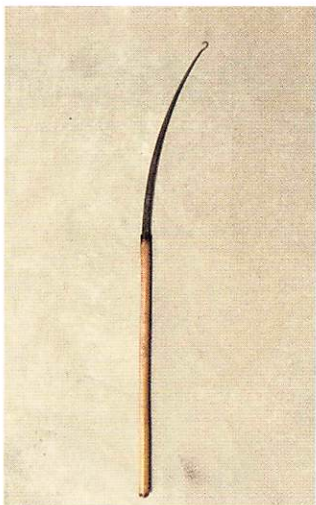
前後しましたが当時（昭和30年代）のその干潟にはあげまきはそれこそ子供でも沢山掘れるほど生息しておりました。有明海は死んでしまつた等と報じられるようになって久しいですが当時はそんなことになる等とは全く思つてもいませんでした。干潟に入つて行き経験と勘だけで密生していそうな場所を掘り場所を決めると、幸運な場合は自分のその周辺を2〜3mの円盤状に掘り進めるだけでその日の大部分を賄えたという日が少なからずありました。行きは良い良い帰りは怖いでは有りませんが一杯になつて重くなった籠を干潟の上を引きずるようにして堤防の上に置いてた自転車まで持ち運ぶのに苦労したのが思い出されます。

次に多く行つたのはわらすほ掻きです。干潟の泥中の深さ20〜30cmほどに穴

を掘り、潜り込んで生息しているのであげまき掘り同様経験と勘だけで漁場を探し（と、言えばかつこ良いですがなんのことない闇雲に）竹先に鉄製の引つ掛け具をつけたわらすほ掻き専用具（写真、全長は1.5mほどだったと思います）で引つ掻き上げる漁法です。結構腕力や腰の力を要する体力勝負でもありました。あげまき掘りほど簡単ではありませんでしたがそれでも引き潮の時間内にはほぼ籠が一杯になるくらいの収穫はありました。

持ち帰つたわらすほは母親に下処理をしてもらい（泥を吐かせたり内臓を取り除いたりしていたか等の細かいことは既にこの世の人ではなくなつた母親に尋ねることも出来ませんが）大きな鍋で茹でた後、筵に一匹ずつ綺麗に並べて天火でからからになるまで干し上げます。この後は再び子供の私の分拍となりミキサ一等という文明の利器がなかった当時この家庭にもあったと思ひますが播鉢（すりばち）と播り粉木で骨ごと播り潰すと現代の子が見たら『怪物だ』と喜びそうだったわらすほが見た目にも若干粗めな粉末ながらカルシウムたっぷり塩味抜群の天然・極上の「ふりかけ」に仕上がります。

焼き海苔や味付け海苔等が入つたブ



リキ缶に保存しておいて食事の度に取
出してふりかけて食べる訳です。当時の
我家は貧しくて毎食毎食白いご飯ではな
く押し麦を混ぜたご飯の 때가多かったと
記憶しています。その麦が混ざったご飯
を美味しく食べるためには欠かせない一
品であり、たまに暖かい白ご飯の時は普
段より一膳余計に食べられたような記憶
も有ります。

ご飯に直接ふりかける他に当時はどこ
のご家庭にも家庭ご自慢の高菜の漬物が
あったのでその漬物に揉みアオサと混ぜ
たりすると全く自分好みの漬物が出来て
海と畑の香りがする風味豊かなご飯の友
にもなっていました。

若い同窓生諸君には時代劇を読ん
でる感覚に近いのではないかと思ひせて
当時の道具(漁具)の写真かイラストが手
に入らないか知人に探してもらったりネ
ットで探したりしてみました。あげまき
掘り具は見つかりませんでした。それは
そうかも知れませんが、もうほとんど採
れないようです。わらすぼははまだ
採れてるようだし道の駅鹿島(佐賀県鹿
島市)では観光事業としてわらすぼ掘り
体験等も行っているようです。興味がある
人は『道の駅鹿島すぼかき体験』で検索
してみてください。

ところでここまで書いて気付いたこと
があります。それは入漁料なるものを一
度も請求されたことがなかったこと
です。私のような子供以外の大人達も大勢
漁をしていたので子供だから免除さ
れていた訳ではないと思います。きっと
当時はそんな小さなことに頓着しないで
も良かった。豊穰の海。だからからでは
ないかと推測しますが...

最後に、有明海は死んだ。とか再生事
業が成されるとかよく見聞きします。
有明海を故郷に持つ身としては悲しくも
辛いことですが、その故郷から遠く離れ
てやぶにらみ的に思うことがあります。

それは大ききも姿・形も良く似ている東
京湾との比較です。私が現在住んでる君
津市に転勤・転居して来たのは高度経済
発展真っ最中の昭和42年暮れでしたが当
然東京湾アクアラインは構想さえ有りま
せんでした(多分)ので帰省のため羽田
空港へ行くには房総西線(現在の内房
線)を始めとした国鉄(JR)線2、3
線とモノレールを乗り継いで行く陸廻り
と木更津、川崎を運行していたフェリー
で行く方法とがありました。陸廻りは乗
り継ぎが悪いと片道3時間強を要してい
たので片道1時間くらいと早かったフェ
リーを利用することが多かったですが難
点が一つありました。それは木更津から
乗って湾中央を過ぎたあたりから海水の
汚れが酷くなると共にどぶ特有の悪臭が
鼻をつくようになり大袈裟に言えばもの
の10分と甲板に出しておれない状態だっ
たことです。

ところがその後東京都を始めとした周
辺自治体の厳しい環境規制が始まると
徐々にではあるものの改善されていき、
同窓生諸君も既にご存知だと思ひますが
最近では多摩川に鮎が遡上するようにな
ったとか一時絶滅が危惧されていた魚介
類が蘇り、東京では『江戸前』を売りに
する寿司店も現れてるとか聞きます。
姿・形こそ良く似てるものの取り巻く環
境は有明海より遙かに厳しい東京湾が立
派に再生されてるのを見聞きするにつけ
有明海も何んとか出来ないのだろうか
やきもきしております。

我がふるさと柳川

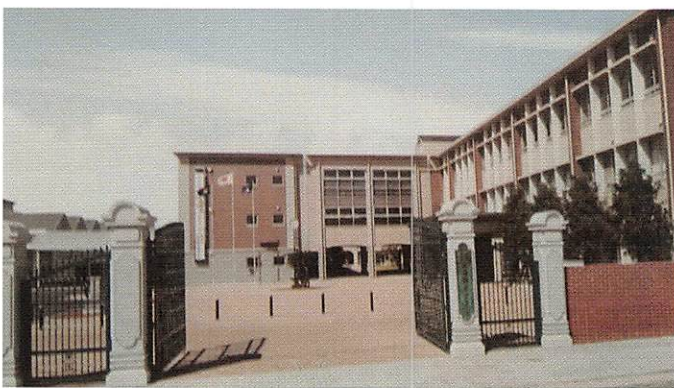
高5 下河 秀行

藩校伝習館は

再来年創立二百年

学生時代に母校の玄関先に掲示してあ
った伝習館「掲示」は、皆さまもご存知
だと思いますが、ここに改めて記載して
みますと、我が伝習館高等学校は、18
24(文政7)年、藩学伝習館設立で、
2年後には記念すべき創立二百年を迎え
ます。

伝習館「掲示」は、1826(文政



正門から望む伝習館校舎

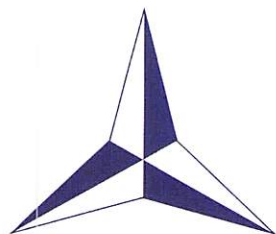
9)年、藩学伝習館設立した第9代藩主
(立花家第10代)立花鑑賢公が下された
伝習館の教育精神です。

明治初期には藩学は解体し、1894
年(27)年福岡県立中学伝習館、190
0(33)年福岡県立柳河高等女学校設
立、1949(昭和24)年、中学伝習館
と、柳河高等女学校が合併して、福岡県
立伝習館高等学校が発足し、現在に至っ
ています。

そして、校訓は「明朗・誠実・剛健」
です。

また校章「三稜」は、伝習館のシンボ
ルマークを「三稜マーク」といい、明治
時代に校章に採用されて以来、伝習館教
育目標を象徴して来ました。三方にのび
る稜線、学校、あるいは生徒の人間性が
バランスよく成長
することを表して
います。

決して勉強や知
識だけに偏らず、
「知」「徳」「体」
の健全な発展を目
指す、これが伝習
館の教育です。



創立二百年記念事業の主なものを挙げ
ると

- 一、記念式典・記念講演・祝賀会。
- 二、創立二百年記念誌の発行。
- 三、三稜記念館空調設備の整備。
- 四、体育館・綴帳の新調(基金への繰入)。
- 五、学校正門一式の整備(基金への繰入)。
- 六、同窓会名簿の更新。

七、校歌・応援歌のCD作成などとなっています。

私は、ここ数年毎年母校を訪問することを楽しみにしていましたが、一昨年から新型コロナウイルス感染拡大で残念ですが恒例の訪問を見合わせています。今年こそは、是非訪問したいと考えています。そして、金子健次柳川市長や伝習館高校葉玉千賀子新校長先生にお目にかかりたいと考えています。

伝習館高等学校は、昨年四月から第四十三代校長で初の女性校長として、同高校出身の葉玉千賀子先生を迎えています。

尚、伝習館高等学校同窓会では現在創立二百周年記念事業の募金活動を行っています。立花同窓会長に代わり、まだの方はご協力をお願い致します。

~~~~~

## 西鉄柳川駅西口に

### 柳川らしい風景

我がふるさと柳川と言えば、まち中の川下り、詩聖 北原白秋、ウナギの蒸籠むし、有明海の美味しい海苔・魚介類などを沢山思い出しますが、なかでも「川下り」は全国的に有名で、これまで毎年内外から30万人〜40万人の観光客を迎えています。

然しながら、令和2年年初からの新型コロナウイルス感染拡大で、この2年間は、内外から観光客は激減しています。

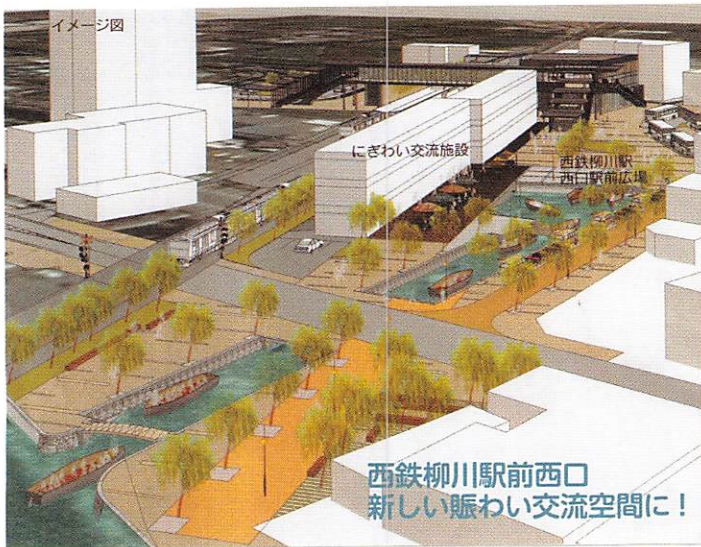
ただ最近十月以降は、コロナワクチンの接種の広がりや国民の外出自粛など

で、新型コロナウイルスの感染は日々減少していることは大変喜ばしいことです。

このような中ですが、新型コロナウイルス感染拡大が一段落した後は、落ち込んだ「経済の再生」が何より急がれています。岸田内閣が誕生して、まだ間もないですが新内閣の大きな課題でもありません。

ところで、ふるさと柳川では、アフターコロナの観光柳川の目玉として現在、西鉄柳川駅西口に二ツ川を引き込み、賑わい交流施設を整備する大事業が進捗していることをご存知でしょうか？

現在の川下りの始点は、三柱神社前と、高畑公園・柳川橋付近が主ですが、



新たに西鉄柳川駅西口からも川下りが楽しめる事業が着々と進められています。

【西鉄柳川駅前西口の賑わい交流施設】の建設計画は、現在福岡県、西鉄、柳川市の3者で進められており、その詳しい情報を柳川市役所に問い合わせして入手しましたので、この最新情報を会員の皆様にお知らせします。

### 駅周辺整備全体スケジュール予定

福岡県、西鉄、柳川市の三者の事業の進捗については、工事が前後する可能性があります。

#### 福岡県

##### 【河川整備（掘削引き込み）】

- 測量・調査・設計等…令和2年度完了。
- 用地買収（西鉄）…令和2年度完了。
- NTTケーブル移設…令和3年度完了予定。
- 建物事前調査・護岸工事…令和3年度完了。
- 護岸・BOX工事…令和4年度着手予定。
- 物件補償（交番）…令和4年度着手予定。
- 護岸工事…令和5年度着手予定。
- 建物事後調査…令和6年度着手予定。

#### 西日本鉄道株

##### 【にぎわい交流施設】

- 用地売却…令和2年度完了。

○バス待機場整備（移転先）…令和3年度完了。

○施設計画…令和2年度〜令和4年度予定。

○既存施設解体工事…令和5年度予定。

○施設建築工事…令和5年〜令和6年度予定。

○外構工事…令和6年度予定。

#### 柳川市

##### 【その他周辺整備】

○歩行者通路屋根整備…令和2年度〜3年度。

○西鉄柳川通り線整備…令和2年度〜4年度。

○佐屋ノ前堺町線整備…令和2年度〜5年度。

○駅周辺交通計画検討…令和3年度完了予定。

○四町八反佐屋ノ前線整備…令和4年度〜令和5年度完了予定。

これらの大事業は、柳川市にとっても画期的で、筑後国主田中吉政公（1548〜1609年）が進めた三河国（現愛知県岡崎）時代に運河の土木技術を活かし、矢部川の水を柳川の街に導き、城下町を整備し「掘割に浮かぶ街」を創った事業に勝るとも劣らないものと思っています。完成の暁にはコロナ禍も終息しているものと考えますので、この事業の完成は観光柳川の目玉として、きつと脚光を浴びるものと大きな期待を寄せています。

（柳川観光大使）

# 踏み出せ、前へ！

伝習館との交流

高41 下河 敏彦

今年の4月から葉玉千賀子先生が、伝習館高校の館長に就任されました。女性では初だそうですが、私は高校3年生の時に現代文を教わりました。ということ、今回の原稿は起承転結で展開してみます。

## ■起—密であれ！

高校3年間は人生の中で、最も色濃く記憶に残る時間です。確かに年を重ねてもいろんな事に好奇心を持ち、挑戦を続けることはできますが、まあそれなりによいしょと「構え」が必要です。

しかし、高校時代はその構えがいらないうばかりか、自転車で切る風のような小さな日常でさえ特別な瞬間です。最近の時勢ときたら、雨でもコロナでも「カコサイタ」が連発されていますが、確率・歴史・地球科学を学んでその意義を考える(後で述べます)こともできるし、同時にスポーツに、文化活動に、友情を育むことにも夢中になれる。

だからこそ、現役高校生は知力・体力・気力の三密状態を謳歌し、それを伝えてほしいと思っています。この原稿では、母校のホームページや、コロナ禍となったこの1年半の間に私が行った高校生との交流や最近の伝習館高校出身者の活躍ぶりなど、ときどき自分たちの高校

時代を思い出しながら報告します。

## ■承—活躍する伝習生

静かに盛り上がった東京オリンピック。開会式の直前に凄じ知らせが舞い込んできました。7月23日、東京は快晴に恵まれブルーインパルスが鮮やかなスモークを描きました。そのブルーインパルスのパイロットに伝習館のOBの方(江口健一等空尉・平成15年卒)がいらつしやいました。とても誇らしいことです。

さて、前号で紹介した自然科学部の活動です。これがまたすごいんです。自然科学部が学会発表する際のパワーポイント資料の表紙は、スタジオジブリの高畑勲監督作品の映画「柳川堀割物語」で用いられたシーンです。この「柳川堀割物語」は昭和62(1987)年の作品、つまり私たち高校41回生が1年生だった時の作品で、私たちにとってはリアルタイムなのです。昭和と令和が思わぬところで美しくつながりました。

話を自然科学部に戻します。

「柳川堀割をニホンウナギのサンクチュアリ(聖地)にする」自然科学部の挑戦は、様々な方に認められ、昨年10月16



7/19に校内中庭で吹奏楽部サマーコンサート  
～伝習館高校HPより



伝習館高校玄関内の賞状やトロフィー



九州大学望岡先生との共同研究

日には小川洋前福岡県知事(故人)のご訪問、さらに今年は、秋篠宮皇嗣殿下が名誉総裁を務められる第23回日本水大賞の農林水産大臣賞を受賞するなど、素晴らしい成果を収めています。2020年の3月27日に東京で生物部を囲む会をできなかつたのは大変残念です。しかし、その後web会議の手法が普及し、自然科学部も活躍の場を広げ、九州大学や東京立大学と共同研究を行うなどどんどん発展しています。私も、自分の専門とする砂防や防災地理の観点から、折に触れ情報を提供しています。

昨年は三稜祭りがオンラインで行われました。何とか青春を謳歌しようとする高校生を見ると切ない部分もあるのですが、世界への情報発信が手軽になった現在では、また違った楽しみ方もあるように思います。今年は、私が所属していた吹奏楽部も、校内サマーコンサート

を開催するなど、徐々に日常を取り戻しつつあります。

## ■転：カコサイタ

私たち高校41回生が高校三年だった1989(平成元)年は、日本の高校生人口は「過去最多」でした。そして個人的でパワフルです。69回伝習館同窓会総会の議案書で、数学の永田喜一先生と樺島康孝先生が同時にそうおっしゃるので、確率的にも稀にみる世代なのでしょう。

ところが、私たちが幹事学年であった第69回伝習館同窓会総会を最後に、コロナ禍に陥り2年連続で総会のみとなってしまいました。

最近、コロナや雨で、「過去最多」が声高に叫ばれています。コロナで言えば1年半、雨量で言えば45年にすぎません。伝習館の歴史はもうすぐ200年、ウイルスも含め自然の歴史は当然もっと



柳川掘割をニホンウナギのサンクチュアリにするための研究ポスター

長い。そのスケールで考えると今起こっていることがどれほどのことなのか、冷静に探求し理解して、世の中を落ち着かせるのは私達大人の役割です。

奪われたけど 奪われなかった  
僕の 私たちの 青春

拜啓、2022年の私へ  
何をしていますか  
あの大学の 桜の道で  
笑って写真を撮っていますか

演劇部引退公演の言葉です。声にならない声を過去最多にしてはいけません。現役高校生もいずれば卒業していきますが、高校時代は「咲いた過去」にしてこそ、人生の楽しみが高止まりするので

結：踏み出せ！前へ  
9月18日（令和3年）、個人的に高校

を訪ねし、葉玉館長先生、木庭先生とお話しする時間を割いて頂きました。この時世なので短時間で、といわれたにもかかわらず、結局15:00〜17:00まで話しこんでしまいました。伝習館高校ロナウイルスの感染者は、一人も出していない。奇跡のよう

だと葉玉館長先生は話されました。でも奇跡ではなく、十分に青春を謳歌し、若者らしい免疫と節制ができていないのではないのでしょうか。

リモートは寂しさが残るのではないかと思いがちですが、木庭先生によると自然科学部の生徒達が積極的に東京都立大学など今まで交流のなかったところにも積極的にアクセスしている。時代に応じる力は私たちの想像を超えていて、いまの生徒達には大変期待しているとのことでした。自然科学部の実験室も訪問しましたが九州大学の望岡先生との共同研究の水槽や、学会発表のポスター、第6回全国ユース環境活動発表大会優秀賞の盾など、人はいないが活気に満ちていました。

そうした話を木庭先生と廊下で談笑していたときに、「すいませーん、忘れ物しましたあ」と、廊下をかけてきた女子生徒の元氣と瑞々しさはいつの時代も変

わらない。新しい校舎の管理棟には、たくさん賞状やトロフィーが展示してあります。我々41回生の栄光、サッカー部の全国大会出場の福岡県大会優勝カップもありました。そして、自然科学部の活躍による賞状やトロフィーも並んでいます。こういう「花」は、あの廊下をかけてきた彼女のような青春の汗や時代を鋭敏にとらえる感性のもとに咲いているのだなあと、いう想いを新たにしました。



第6回全国ユース環境活動発表大会優秀賞の盾

伝習館高校の学校パンフレットには、踏み出せ！前へ！というスローガンが掲載されています。バブルだ、災害だ、ウイルスだと重荷はいくつもありますが、歴史は前にしか進みません。このことを、いろんな世代、いろんな場所での交流を通して、伝えていきたいと思っています。

※今回、特別に許可を経て母校を訪問し、自然科学部や高校の活動状況を伝えました。伝習館高では極力コロナ感染者を出さないよう努め、今は学校並びに校長への訪問等を制限しているというので、皆様に伝達を、との要請がありました。

懐かしいふるさとの味  
〈今昔〉(その3)  
高4 荒井健之輔

「野、山、田、畑の恵み」

1)「そらまめ」(なつまめ)

「そらまめ」は美味しい。春を感じる、季節感あふれる農産物である。今、埼玉に住んでいて「そらまめ」と市場やスーパーで最初に出てくる「そらまめ」は鹿児島産である。やがて関東物も出てくるが、みんな粒が大きい。そして豆の皮がやや硬い。しかし我々が柳川にいた頃、食べていた「そらまめ」はもつと小粒で、皮も柔らかくて食べられた。美味しかった。確か「なつまめ」と言ったと思う。「エンドウごはん」のように「なつまめごはん」もあったと思う。柳川の自宅の畑でも「なつまめ」を作った。家族が多いので沢山作った。

10年以上前の5月だったと思うが、伝習館の同期会で柳川に帰った時だった。友人と「たつみや」に昼食を食べに行った。女将の東辰子さんが傍に来て「帰つとりめしたか」と言って「なつまめは食べますか？」と。「そりゃー食べる食べる」と喜んで食べたことだった。久々で実に美味かった。  
関東では「そらまめ」を塩茹でして、中だけ食べて皮を出すのが一般的のようである。我が家では醤油味で煮る。硬い

から仕方なく皮を出す。

「なつまめ」

(小振りのそらまめ)は、

乾燥したものを、はじき豆

にしても良

い。油で揚げ

たいかり豆も

美味しい。フ

ライパンで炒

ったものは固いので難儀するが口に入れ

て噛んでいると香ばしくて味がある。大

きな「そらまめ」は似合わない。今一度

「なつまめ」を食べてみたいものである。



## 2) 「たけのこ」

これも季節感あふれる山の幸である。

昔、辻町の交差点のすぐ脇に「福岡銀行柳川支店」があった。銀行の前のちよつと広くなったところに、四月初めに清水山の方から「たけのこ」売りの小母さんがやって来て、「たけのこ」を山積みにして売っていた。「朝掘りのけんうまかですよ」と言つて。旬の「たけのこ」はとにかく美味しい。

埼玉に住んでいてすぐ近くの「生鮮市場」によく出かける。4月初め待っていた「たけのこ」が開始する。まず熊本産である。次いで福岡産が出てくる。いいものを選んで買うが美味しい。ふるさとの味がする。遠い清水山や御牧山の竹林を思い出す。「たけのこはん」がまた美味しい。掘りたてが美味しいのは分かつ

ているが、埼玉で福岡産をいただいで我慢をしている。「たけのこ」が出る間何度でも買って春の味覚を楽しみ、ふるさとを偲んでいる。

## 3) 「ひし」

夏、「ひしちゃんおー」と言う呼び声

で「菱売り」が回つて来た。夏の風物詩

である。筑後の菱の実はやや小ぶりだと思

う。茹でた菱の実を包丁で2つに切つ

て、中の実を食べる。栗の実ほどではな

いが、ほのかな甘みがあつて、ふつくら

とした食感である。腹の足しになるよう

な食べ物ではないが、季節を感じさせら

れる。子供の頃、宮永橋あたりに泳ぎに

行くと岸に沿った水草やほいていあおい

どと一緒に菱があつて、水面下に実があ

つた。

## 4) 「砂糖きび」

終戦後、砂糖が乏しかった。止むを得

ず「サツカリン」や「ズルチン」などの

人工甘味料が代用された。子供たちにと

っても本物の甘いものが欲しかった。そ



こで畑のある人は、畑の隅に「砂糖きび」を植えた。学校から帰ると、鉈を手に畑に飛んでいく。「砂糖きび」を切り倒し、更に節毎の大きさに切る。切り口の表皮を歯で咬んで剥いて、中の柔らかい芯のところを噛(しが)むと甘い汁が出てくる。八百屋では節毎に切つて束ねたものを売つていた。歯で咬んで皮を剥くときに、誤つて口の端を切つて血が出たりした。甘さの誘惑には勝てなかつた。

奄美や沖縄の製糖産業用の「砂糖きび」は大きくて太い、そして表皮も硬いが、我々が自宅の畑に植えて、切つて噛んだものは細かつた。多分種類が違つていたと思う。子供の歯で皮を剥いだのだから。

## 5) 「ふだんそ」(不断草)

これは良く食べさせられた。畑にずらりと植えてあると、次々と葉が伸びて来て、伸びたものを外側から採つていくので、いつでも収穫できる便利な野菜だつた。独特の香りがしておひたしで食べる

のが主だつたように思う。特に美味しいとも思わなかつたが、いつも食卓に上がるので何となく自然に食べていた。食べるを得なかつた。家計にやさしい野菜だつた。

## 6) 「高菜」

筑後地方で忘れていけないのが「高菜」である。「高菜漬」にして毎日食卓に上がった。「高菜漬」のない食卓など考えられなかつた。ふるさとを代表する

漬物である。昔はこの家でも高菜を漬けたと思う。冬に入って霜が降りるようになった頃、大きく育つた高菜を漬けこむ。自分の畑で育てたものや八百屋で買った高菜を、大きな樽で漬ける。1年中食卓に上る程、沢山漬けた。高菜自体にも少し辛みがあるが、更に唐辛子を加えて漬ける。年が明けて、新漬けが食卓に上る。独特の青臭い香りがまた良い。少しピリリとするのが良くて、美味しい。関東では「青高菜」という名で売られている。

春から夏にかけて、漬けた樽の蓋の上の重しがひたひたになるほどに、水が上がつてくる。夏になると、強い臭いがしてくる。古高菜の臭いである。物置の中は臭いで溢れる。これが毎日食卓に上るのだった。我々はこれを「高菜のおこもし」と言つた。臭くても我々はこの「おこもし」で育つたのである。忘れられない懐かしいふるさとの味である。

埼玉に住むようになって、自宅の隣りに畑を借りて野菜を作つたが、高菜も植えて漬物を漬けた。「青高菜」である。自分で漬けるのはまた格別に美味しかった。友人にも進呈した。

今でも、スーパーやデパートで「高菜漬」を買つて来ては、刻んで、ごま油で炒め、唐辛子を入れて、「高菜漬の油炒め」を作る。「からかつちゃん」という名で、デパートで売つていたりする。しかし自宅で作つても負けない。これは食欲をそそる逸品である。美味しい。ごはんがすすむ。このところデパートでも「高菜漬」を



見かけない  
ことがあ  
る。そうい  
う時はみや  
ま市（瀬  
高）の漬物  
屋に頼んで  
送って貰っ  
たりしてい  
る。最近お  
願ひしてい  
るのは「ま  
つきのたかな」（瀬高町本郷の松木さ  
ん）である。九州物産展などで見かけ  
ると買うのが常である。筑後人・柳川人  
としては「高菜漬」は欠かすことのできな  
い食事の友である。

## 7)「トマト」

昔のトマトは美味しかった。最近  
は美味しいトマトになかなかお目にか  
からない。近所の生鮮市場によく行く  
が、最近トマトの種類も多い。そし  
て結構いい値段である。

九大の学生の頃、福岡の箱崎で  
間借りをしていた。夏休みに入  
った頃、今は亡き高須信治君と私  
の部屋で碁を打った。そのうち腹  
が減ったので、近所の八百屋へ  
行ってトマトを買って来た。当  
時は1貫目（3・75キロ）でも安  
かった。部屋の前の流しの盥に冷  
たい井戸水を張り、トマトを  
投げ込み冷えるのを待つ。この  
トマトが実に美味かった。飯代  
わりの1貫目のトマトは食べ  
応えがあった。柳川の家にも  
広い畑があってトマトを

沢山作った。子供の頃お腹を空  
かせて家に帰るや否や、畑に  
飛んで行って、陽に当たって  
温かいのも平気で、熟れたト  
マトを握りかぶりついていた。  
貴重なおやつ代わりだった。  
瑞々しいあの味は忘れられ  
ない。美味しかった。  
実は、今でも美味しいトマト  
はある。四国の高知の「徳谷  
トマト」など一例だろう。と  
にかく美味しい。しかし目の  
玉が飛び出るほど高い。もう  
野菜ではない。高級フルーツ  
である。

## 8)「なすび」（なす）

柳川では「なすび」である。「な  
す」とは言わなかった。柳川  
の「なすび」は普通「長なす  
び」である。畑には必ず「な  
すび」が植えられてあった。  
煮物にして焼きなすにもつ  
てこいなのである。「なす  
び」は油に合うのか、煮物  
に油を入れると味が引き立  
つ。そして「焼きなすび」も  
また美味しいのである。七  
輪の上に網を乗せて焼く。焼  
けたらへたを持って皮を取  
る。ごまを振りすり生薑と  
醤油をかけて食べる味は、  
誠に美味しかった。「長な  
すび」でこそその味である  
う。過日テレビを覗いてい  
たら熊本の「長なす」とい  
うのが出ていた。なんと40  
cmほどにもなるという。「  
長なす」は西日本特産なの  
であろうか。「なす」にも  
色々な種類がある。「小な  
す」「米なす」「賀茂なす」  
などなど。

「賀茂なす」は何度か京都  
でいただいた。大きくずん  
ぐりとした丸いなすである。  
直径15cm程にもなる。輪  
切りにして焼いて美味し  
い。味噌をつけて食べる

ことが多い。「なすび」は  
漬物にしても美味しい。「  
仙台長なす漬」という漬物  
が仙台の名物で、仙台に  
行くとき必ず買って帰った  
が、この長なすは小さく細  
い長なすである。まあ美  
味しい。「小なすの辛子  
漬」も美味しい。

## 9)「とうきび」

「とうもろこし」のことを、  
我々は「とうきび」と言  
った。暖かくなると近くの  
生鮮市場に「とうきび」が  
現れる。産地は関東一円で、  
盛りには北海道ものが幅  
を利かせてくる。どれも少  
し甘みがあってそこそこ美  
味しいが、全般に水っぽ  
い。

我々が子供の頃にかぶり  
ついたあの「とうきび」と  
は違うのだ。あの頃のもの  
にはもちもち感があった。  
それが美味しかった。その  
頃おやつなどないので畑  
には「とうきび」を植えて  
いた。実るのが待ち遠し  
かった。先の方の皮を少  
し剥いて実のつき具合を  
チェックしたりした。殆ど  
茹でて食べた。

以前、熊本を旅行して  
いた折に、阿蘇外輪山の上  
で「焼きとうきび」を売  
ていた。早速買って食  
べてみると、もちもち感  
があって子供の頃に食  
べた味に似ていた。生の  
「とうきび」を1袋下  
げて帰ったことだ  
った。あの味が懐  
かしい。

## 10)「じゃがいも」（ジャガタライモ）

戦後間もないまだ私  
が子供の頃、柳川でも  
「じゃがいも」を沢  
山作っていた。

「ジャガタライモ」とも  
言った。表作は勿論米  
であるが、裏作は麦か  
「じゃがいも」だ  
った。当時城内の我が  
家の前を、馬車の荷  
台に「じゃがいも」を  
詰めた袋か俵を山ほど  
積んで、バックパ  
ックと筑後柳河駅に  
向かって次々と通  
って行った。「じゃ  
がいも」を掘った  
後の畑に梅雨の大雨  
が降る。すると取  
り残された小さな  
白い新じゃがが  
現れる。我々は  
濡れになって、  
堀から畝の間の  
溝に上がった小  
鯛などを追  
いながら、ついで  
に芋もいただいた。  
この小いものは  
ゆでて塩をつけて  
も美味しかったし、  
甘辛く煮ても  
また美味しかった。

ヨーロッパにはよく  
行ったが、あちら  
では「じゃがいも」  
はメインの食材であ  
る。ドイツでは  
ローストした「  
じゃがいも」が  
殊の外美味し  
かった。ジャー  
マンポテトも美  
味しい。ジョン  
・ウェイン主  
演の「静かな  
る男」という  
映画があった。  
年を経て故郷  
アイルランド  
に帰ってきた  
男が、近隣と  
いろいろと諍  
いを起こす  
が、食事で食  
べているのは  
「じゃがいも」  
ばかりだ  
った。イタリア  
には「じゃ  
がいも」を材  
料にした「ニ  
ョッキ」とい  
う料理がある。

最近柳川の方では、「  
じゃがいも」は  
あまり作らな  
いらぬらしい。  
土が合わない  
のかも知れ  
ない。おまけ  
に大量生産  
の地方がある。  
昔より「  
じゃがいも」  
は種類も  
多く、美  
味しくな  
っている  
ように思  
う。北海道  
産が多い  
が、長崎  
の雲仙市  
のもの  
も美味  
しい。「  
じゃがい  
も」は  
美味  
い。  
大好き  
である。

## 11) 「からいも」

終戦前後、我々はこの「からいも」に命を支えられた、といっても過言ではない。祖母が「ごはんよー」と我々を呼ぶので行ってみると、蒸かした「からいも」が食卓の上にある。我々の主食代わりに、主として昼飯にしばしば食卓に上った。また、おやつ代わりによく食べた。中学の頃野球の試合に行くとき、弁当の他に「からいも」を包んで持って行った。柳川の近くでは作っていないので、山川の方から持ってきて貰った。一度に大きな麻袋一杯は買っていた。たまには美味しい「からいも」はあったが、最近食べる「さつまいも」に比べると美味しくなかったように思う。筑後の土は粘土質で「からいも」には向いていないのだろう。最近食べる焼き芋は実に美味しい。「からいも」は懐かしい。

### 「果物」

#### 1) 「みかん」

これの代表は「宮川早生温州みかん」である。(会報20号で述べたので記述は省く)

#### 2) 「きんこし」(金柑子)

本来「きんこうじ」からきていると思うが、我々は「きんこし」と言った。昔の城内の屋敷には「きんこし」の1本や2本は植えられていた。温州みかんよりやや表皮は固いが甘くそして少し酸味がかった。しかし美味しかった。秋の柑橘

を代表する一つだったのではなからうか。最近「はつきく」というのをよく見かけるし、買って食べるが、似ているような気もする。昔、伝習館の生徒が「きんこし泥棒がおるばんも」と大きな声で言いながら、生垣の外に垂れている「きんこし」の実を2、3個失敬したという話を聞いたことがあった。微笑ましい。城内小学校の敷地の西側に、昔「きんこし」の木が7、8本あったと思うが、今はどうだろうか。

#### 3) 「ざぼん」

昔、城内の我が家の裏の畑の隅に1本の「ざぼん」の木があった。我々はこれを「紫ざぼん」と言っていた。果肉がオレンジ色でなくて、薄い紫色(紅紫色)を帯びていたからだろう。「ざぼん」も「きんこし」と同じように、城内ではあちこちの屋敷内に植えてあったように思う。直径20センチくらいに大きく育つが、表皮は分厚い。果肉は程よい上品な甘さがあった。四国によく行ったが「土佐文旦」がよく似た味だった。「水晶文旦」というのも美味しかった。しかし「ざぼん」はもともと大きくて、表皮が厚かった。皮

は砂糖煮(漬)に適していたと思う。「長崎のザボン売り」とか言われるし、鹿児島



では「ボンタン漬」なども売られている。「ボンタン飴」もある。同系統の柑橘類で南国特産かもしれない。「ざぼん」は美味しいものである。

#### 4) 「柿」

私は甘い「富有柿」が好きである。御所柿など日本各地名物の柿は多い。渋抜きをした柿も有名である。しかし私はまず「富有柿」に指を屈する。朝倉や浮羽の「富有柿」は絶品である。昔は城内の家には大抵1本や2本柿の木があった。我が家も大して広い屋敷でもなかったが、5本の柿の木があった。「富有柿」のレベルにはいかないが4本は甘柿で、1本は大粒の渋柿があつて「とんこ柿」と呼んでいた。子供の頃、毎日おやつなどあるわけがない。甘柿がおやつである。秋には学校から帰ると竹竿を持って庭に出る。竿の先を割って棒を挟み込み、それで柿の実の下の枝を挟んで捻じめる。柿がポロリと落ちるといった具合だ



富有柿

った。甘く熟れるのを待ちきれないで握いだものであった。おやつ代わりにだから甘柿でないといけない。「富有柿」であれば言うことはない。

渋柿の「とんこ柿」は、母が皮をむいて2階の軒下に吊るして干し柿にした。これは大粒だったから、ぼつてりとしていて食べ応えがあつた。とても美味しかった。

味には関係ないが、柿の葉の若葉の色が好きだった。晴れた日に庭の柿の木の下にござをあげ、仰向けに寝て、黒い幹と若葉を見上げ、その間から見える青空と、流れていく白い雲を眺めるのが好きだった。遠い少年の日の思い出である。

#### 5) 「ぶどう」

最近、「ぶどう」も盛んに栽培されているらしい。柳川に住んでいる末弟から「巨峰」を送って貰ったことがあった。美味しかった。

#### 6) 「びわ」

「びわ」も皆さんの家にあつたのではなからうか。我が家には2本あつた。「びわ」の名産地としては「茂木(長崎)」、「桜島(鹿児島)」、「房州(千葉)」などが名高いが、柳川のものとはそれほど立派なものではない。小粒である。我々は「びわ」とはおこがましくて、「ひわ」と言った。でも甘くて貴重な初夏のおやつになってくれた。「ひわ」は種が大き過ぎる。

だから実が少なくなる。仕方がない。

(会報23号につづく)

# 斜庵先生伝

斜庵・小野 善睦

パロディ：陶淵明「五柳先生伝」

先生不<sub>レ</sub>知<sub>二</sub>何許人<sub>一</sub>也。亦不<sub>レ</sub>詳 其<sub>二</sub>姓字<sub>一</sub>。庵古色蒼然、傾<sub>二</sub>已斜<sub>一</sub> 因以<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>号焉

閑靖少<sub>レ</sub>言、不<sub>レ</sub>慕<sub>二</sub>榮利<sub>一</sub>。好<sub>レ</sub>読<sub>レ</sub>書、不<sub>レ</sub>求<sub>二</sub>甚解<sub>一</sub>。每<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>會<sub>レ</sub>意、便欣然忘<sub>レ</sub>食。

性嗜<sub>レ</sub>酒、家貧不<sub>レ</sub>能<sub>二</sub>常得<sub>一</sub>。親旧知<sub>二</sub>其如<sub>一</sub>此、或置酒而招<sub>レ</sub>之、造飲輒<sub>レ</sub>尽。期在<sub>二</sub>必醉<sub>一</sub>。既醉而退、曾不<sub>レ</sub>吝<sub>二</sub>情去留<sub>一</sub>

環堵蕭然、不<sub>レ</sub>蔽<sub>二</sub>風日<sub>一</sub>。短褐穿結、簞瓢屢空、晏如也。常著<sub>二</sub>文章<sub>一</sub>自娛、頗示<sub>二</sub>己志<sub>一</sub>。忘<sub>二</sub>憶得失<sub>一</sub>、以<sub>レ</sub>此自終。

先生は何許の人なるかを知らざる也。

またその姓字を詳らかにせず。庵は古色蒼然として已斜めに傾く、よりにて号となす。閑靖にして言少なく、當利を慕わず。書を読むを好むも、甚だしくは解せんことを求めず。意に会することある毎に、更ち欣然として食を忘る。性を嗜むも、家貧しくして常には得る能わず。親旧そのかくの如きを知り、或いは置酒してこれを招けば、造り飲みて輒 尽くす。期するは必ず酔うに在り、既に酔いて退き、曾って情を去留に吝にせず。環堵蕭然として、風日を蔽わず。短褐穿結し、簞瓢 屢空しきも、晏如たる也。常に文章を著して自ら娛しみ、頗る己が志を示す。憶を得失に忘

れ、此れを以て自ら終る。

## 「柳川弁訳」

先生はドコン出身の人かようわからんし、ホンナ名前もはっきりせんト。

住ンドラツシャル庵ナ古色蒼然として斜めに傾いトル。ソリケン、ダツデンが斜庵先生チ呼ビヨシナハル。

先生はのんびりしてマンマンシヤンのゴツ、人ンヨカモン。あんまり喋ラツシヤレンし、出世しようとか金儲けしようとかチツトも思うトシナハラン。

読書好きバツテン、分らんトコは、どんどん飛ばして、自分の気に入ったトコは、食事も忘れて読みナハルゲナ。

ホンナコツは大の酒好きバツテン、貧乏ヤイケン、イツデンナ飲めんでオラツシャルモン。親戚や友達ノ可哀想ガツテ、ちよ

いちよい飲みに誘うてくれなハルと、喜んで來ナハル。そして、とことん飲んで、酔っ払うまで飲マツシャル。酔っ払うとが目的で、酔っばらつた後は、さっと切り上げて帰んなハルモン。二次会テロン、カラオケテロンには興味の



ナカゴタル。

家ン中はなーんもナカ、さっぱりしたモンジャン。風ン吹こうが、雨ン降ろうが、日ノ照ろうが、関係ナカ。

着るモンナ着たきり雀タンモ。食ベモンもちよいちよいノウナリヨルバツテン、イツチヨン氣にシナハラン。

イツデン何とも知れん文章バ、書きヨシナハル。一銭にもならんバツテン、書きタカコツバ書いて、満足して納得シトシナハル。

(米寿記念戯書／二〇二一年三月)

## 暮らしの中の詩

——三題

高5 今村 直

社会鍋

東京・新宿西口

駅前遊歩道

トランペットの音色がひびく

粉雪舞う師走

救世軍の社会鍋

ひとりの老婦人が献金を

そつと入れ立ち去る

右手のなしたるを

左手に知らせるな

コロナ禍の中

降誕祭 新年へと

時は流れ去る

春の萌し

見よ一輪の梅を

寒風に咲く一輪の花を

氣品のある香りに

めぐりあえる幸を

陽の光はやわらか

若草の萌え

春は近い

梅の香よ

空高く舞いあがり

悲しむ人の心を

あたたためよ





# 八月は……

高14 井上晴美

原爆も 戦も知らず 時越して  
伝える源なし 八月の月

何を語るや、憚る私は。せめて遠い日の小さな村の小さな思い出を、絵巻のようにクルクルと廻す。

粟めし、麦めし、芋、豆、カボチャ、お米大事に工夫、工夫。米少々の混ぜごはん。カツオ削りはカリカリカツカツ。うどん捏ね捏ね製麺機。ニヨロニヨロ、グルグル、ニヨログルル。ツンキッダゴ味噌汁に。ふなやき、きごもち、ごんだんぎり。カライモまんじゅう、蒸かして、ふかしてフウフウフウ。鼻はピクピク、にこにこ笑顔。甘酒しつとり、祖母の味。夏は井戸でヒンヤリ、スイカ、カシウリ。黄色フンワリ、熱っちっち、山盛りトウキビ、熱っちっち。

小さな村は五十戸余り。一家十人、じいとばあ、父ちゃん、母ちゃん、子供たち。お宮さん、二ヶ寺を囲んだ質素な暮らしぶり。

春夏秋冬、田畑を守り、収穫し、家を、家族を守り助け合ってきた。が、昭和三十年頃から急に、新しい風、新しい波が人々の暮らし方を変えていった。村の外に出て働くことを。男も女も。世の中の自然な変化、成りゆきである。旧国鉄佐賀線は大事な交通手段となり、学

校、職場への通勤、娯楽、さまざまな目的の助けとなった。昭和の文明開化である。結果、電化生活に慣れ、家族の二人は勤め人となっていた。農作業は老人、女性が。休日は、勤め人となった家族が働く構図が定着していく。

自然の風景も徐々に変わっていった。子供達の遊び方も。川べりの笹や野イチゴは無くなりペッターと、ツルーツとした土手に。子供達の水遊び、キヤーツ、キヤーツと思いつき大きな声も、プツリと消えていった。

家の造りは、こちんまりとスマートに構え、モクモク煙突も無くなり、家族は小人数となりそれなりの暮らしぶりは整ってきた。

村の「おへそ」のお宮さんから、子供の声が聞こえなくなって久しい。平成、令和と時を経て、小さな村はこちんまりと生きている。

季節の始まりと締め。農事に沿ってことを進める村人たちの営み。合間、合間の「よこいの日」、村を廻つてくる芝居、映画、浪花節。時に賑やか、ちんどん屋。何故か、もの哀しき、アコイデオン。ブーカ、ブーカ、ラーラ・ラーラッラ、ラーララーラー。ブツブツ、ブンブカブツ。夜店のガス灯、豆電球、お宮の参道大賑わい。

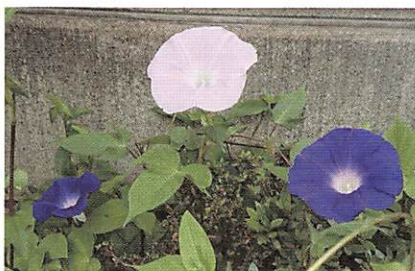
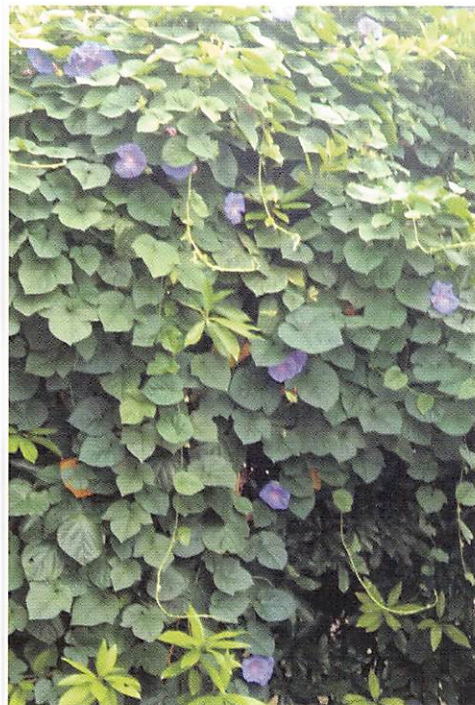
お月さまはニッコニコ  
梅の大樹も、ニッコニコ  
村を離れた今の私は、ただの昔話を恋しがる老人である。

## 俳句・五七五

この十日 照る日なしとて 秋の文  
雨、コロナ 知るや知らずや 虫の声  
雨、コロナ 又も籠りて 秋二人  
今朝五つ 朝顔の花 樹をのぼる  
天に咲く あさがお仰ぐ 雨止みて

## 短歌・五七五七七

長雨を 浴びて晴れ晴れ 朝顔は  
天空めざし 青青と咲く  
盆十五 戻り梅雨晴れ この朝の  
東の空は 青、青、青に  
令和三年八月



## 杵屋勝国さんが恩賜賞・日本芸術院賞を受賞

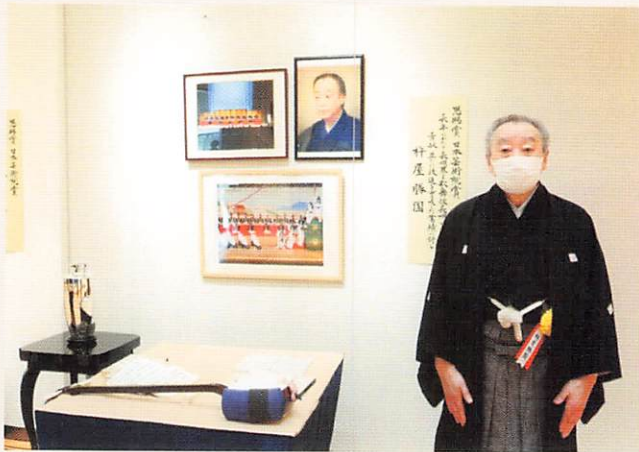
一昨年、重要無形文化財保持者・人間国宝に認定された長唄三味線の杵屋勝国さんが、昨年春は旭日小綬章の受章に次いで、第76回の恩賜賞・日本芸術院賞（前年決定も授与式がコロナ禍に配慮し延期）を受賞されました。この賞は日本芸術院が卓越した芸術作品の制作、または芸術の進歩に貢献する顕著な業績があった方に授与するもの。勝国さんは杵勝会理事長として一門を率い、40年近く歌舞伎で立三味線を務めるなど長唄界を牽引している功績を評価されました。

師は1945年、福岡県瀬高町生まれで柳川育ち。伝習館高に一年時に在籍されています。6歳で三味線を習い、高校の途中で東京に移り、東京芸大に進学。7代目杵屋勝三郎から薫陶を受けて頭角を現し、坂東玉三郎、18代中村勘三郎の立三味線を務めました。

6月28日、上野・芸術院にて、天皇・皇后両陛下のご臨席のもと授与式が行われ、恩賜賞・日本芸術院賞の証書とトロフィーの様な菊の御紋入りの壺が贈られました。

続いて展示の前で勝国さんが両陛下に歌扇録、舞台使用の三味線など陳列品の要点を説明。三味線の構造、材料について、また6歳の6月6日から三味線のけいこを始め、師匠の左手を見て、耳で聞いて一生懸命覚えたこと、子供のころ覚えた曲は今でも鮮明に記憶していることを話されました。陛下からは普通の長唄演奏会と歌舞伎座などでの舞踊演奏の違いのお尋ねもあったそうです。また皇后様には三味線の部材が動植物の国際保護条約規制により入手困難になっていることを申し上げたということです。

長唄界では恩賜賞は初めての受賞。師は今後の使命として「後継者の育成」をあげ、「継いでくれる人材がいなければ伝統文化は消える。三味線音楽、長唄という誇れる日本文化の継承者を育てたい」と述べられています。



## 本校卒業生「Ran」

### シンガー・ソングライターでデビュー

2年前、伝習館高を卒業のRanさん（2000年8月9日生、柳川市昭代出身）を紹介します。高校時代からボーカルクールに通い、ギターやソングライティングの腕を磨き2020年2月ビーイングよりデビューしました。音楽配信Eggsにアップロード、8月にはアルバム「無垢」をリリース。翌年8月、初の音源ライブ「2021 0302 band session」配信リリース。ミクスボイスとファルセットの美しさが魅力で、10代のころの心の叫び、刹那的な歌詞は胸に響きます。

柳川市応援プロジェクトの「柳川がまだす係長」にも任命され、東京・福岡で活躍中です。皆で、同窓新人を応援しましょう。<http://beinggiza.com>



## 伝習館東京同窓会ゴルフ同好会 令和3年度の報告——山田雅彦（高40回）

ゴルフを愛する同窓生の交流を図ろうと、3年前に立ち上げた東京同窓会ゴルフ同好会（梶島正司会長）も年々新しい仲間（女性ゴルファーを含む）が加わり、にぎやかになってきました。最近では女子プロ、男子プロとも海外のメジャー大会を制し、コロナ禍の中ではありますが、プロの活躍に刺激される人も増えているようです。時節柄、解放感に溢れたスポーツとしても魅力です。5月のコンペには16人が参加しました。11月にも女性3人が参加しコンペを開催予定でしたが悪天候のため、現地において中止となりました。令和3年5月に行われた7回コンペ（東京同窓会競技大会）について報告します。

なお、令和4年度も年2～3回のコンペ開催を予定しています。東京同窓会の皆様の参加をお待ちしております。

### 第7回コンペ

開催日＝5月18日（火） 会場＝川越カントリークラブ 参加者＝16名 優勝：酒見 和平（高24回卒）

雨予報も、“晴れ女、晴れ男”のご威光か、雨を撃退しての開催となった第7回コンペ。優勝したのは酒見和平さん（60・51＝グロス111、ネット73.8）。埼玉・鴻巣市在住の地の利?!か、ハンデキャップの強運か、「下手なスコアで優勝させていただき、心苦しい～でも楽しいゴルフができ、ありがとうございます」と苦笑い。準優勝は甲斐田幸輝さん（高32回）でベスグロの43・43＝86と素晴らしいゴルフを見せました。



### 第8回コンペ（悪天候により中止）

開催日＝11月9日（火） 会場＝本千葉カントリークラブ  
参加者15名予定

前年10月、本千葉CCで雨にたたられ、思うに任せず悔しい思いをした人たちのリベンジ大会となるはずだった第8回のゴルフコンペ。同会場の本千葉CCは、開始時から冷たい雨が降り続き、回復の見込みもないところから正式のコンペは中止と相なりました。それでも現地に集まった有志によりハーフ9ホールのラウンドが行われました。“3度目の正直”、次回、晴天でのご健闘を祈ります。

問い合わせ・連絡先＝山田 tel090・5524・7028にショートメールを。

## 35回同期生 故・加茂克也の墓参

ヘアメーカーアーティストとして世界で脚光を浴びた加茂克也さん（池上氏が会報21号に掲載）の一周忌と納骨式が目黒不動尊そばの海福時で行われ、墓参に35期生の有志が集まりました。加茂夫人が出迎え、これまでの経緯を伺いました。クリスチャンを思わせる十字架墓も国際的な活躍をみせた加茂克也さんにちなんだデザインとのこと。高校の修学旅行で一緒だった古賀ゆかりさんがスキーの写真を披露、皆で故人を懐かしく偲びました。



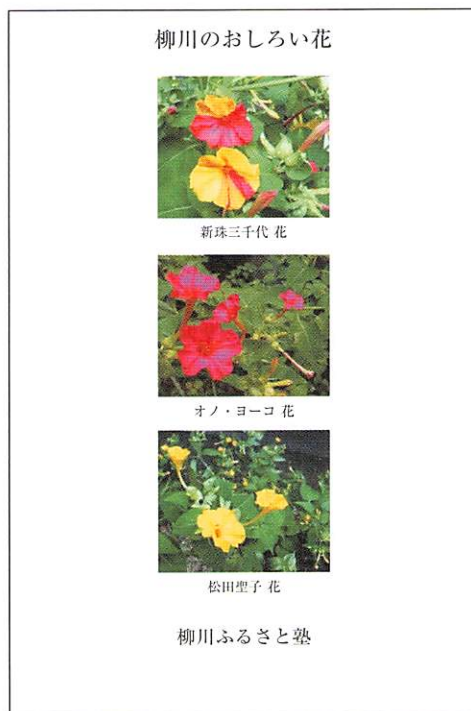
## 『ふる里の話をしよう』 一原達郎

柳川を中心に南筑後地方の歴史・文化を勉強する「柳川ふるさと塾」を平成15年に立ち上げ、18年間毎月例会を開いてきました。それを『ふる里の話をしよう』にまとめて発刊（令和3年10月26日）いたしました。

柳川出身、有縁の方は芸能人だけでもタモリ、福山雅治、妻夫木聡、新珠三千代、オノ・ヨーコ、松田聖子の皆さんが顔をならべ、伝習館出身者は文化人、軍人など多士済々。

加えて南北朝、戦国時代から平成にいたるまでの歴史物語を掲載しています。A6、485ページ、税込2750円。お申し込み先・原達郎 090-8835-5957

メール hara1026@jcom.home.ne.jp



## たいりん つばき しずか 「大輪の椿」 大沢 静

柳川藩は11万石、伊達家は62万石、どう見ても大事な一人娘が嫁ぐにふさわしいとは思えない……忠宗は母の振姫が、安易に納得すまいと思うと、何やら胃のあたりが鈍く痛み出した。「大輪の椿…心の月」より

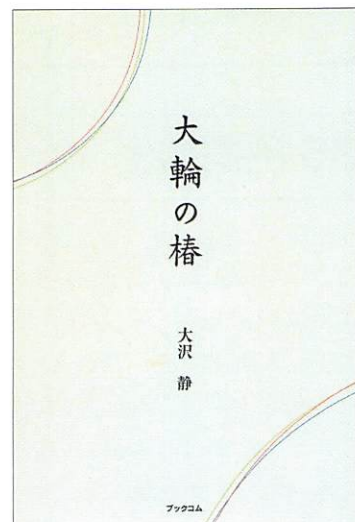
2020年9月18日初版発行 (株)ブックコム 定価1200円(税別)

◎アマゾンにて「歴史小説 大輪の椿」で取り扱い中。

### 著者略歴

大沢静（本名・藤木妙子） 高23回

福岡県柳川市大和町出身。母校・伝習館高校は江戸時代、柳川藩の藩学が前身。昭和62年11月に龍ヶ崎市へ転居。柳川藩立花家に、仙台藩伊達政宗の孫姫（鍋姫）がお嫁入りした縁もあり、「伊達領龍ヶ崎」の物語を書くことになる。



## 伝習館「学徒動員殉難之碑」 一原達郎「ふる里の話をしよう」より

※先の大戦で、大牟田の空襲で伝習館生17人が犠牲となった「学徒動員殉難之碑」についても記述があるので特別に掲載します。(編集部)

太平洋戦争末期の1945(昭和20)年8月7日、米軍機による大牟田空襲によって、大牟田市内の各工場に学徒動員されていた旧制福岡県立中学伝習館(現在の福岡県立伝習館高校)報国隊の生徒たちが犠牲になった。

学徒動員は戦局が厳しさを増した1944(昭和19)年3月から始まり、7月になると伝習館も3、4年生が出勤命令を受け、翌年2月24日からは2年生も加えられた。亡くなった14歳から16歳の学生17名は、次の方たちである。

三池製作所 3名 井口洋、古賀良平、高田春樹  
染料 4名 石橋常克、大淵惚次郎、古賀久人、西末男  
東洋高圧 10名 古賀篤、堤健蔵、長野淳夫、小宮博巳、古賀和美、諸藤光男、  
石橋善雄、杉野久雄、京都謙祐、石橋和雄

翌8月8日に遺体は大牟田の延命公園で荼毘に付され、彼らの遺骨が母校伝習館へ帰ったのは9日午後のこと。逝去から8日後の8月15日に戦争は終結した。

1969(昭和44)年、伝習館同窓会館(旧医師会館)に「伝習館殉死之碑」が建立され、1978(昭和53)年、伝習館創立155周年を記念して、卒業生でクール・ファイブの内山田洋(本名・道生、高6回)氏がチャリティショーを開催。その会費を基金に「学徒動員殉難之碑」を伝習館の正門北横に建立、校舎改築のため2015(平成27)年に校庭の東南に移された。碑には次の追悼文が刻まれている。

第二次世界大戦は多くの青春を戦場に送った

銃後はまた学業にいつくしむ学徒を軍需工場に徴用し、ために昭和二十年八月七日の大牟田大空襲はわが伝習館学友十七名の尊い生命を奪った。学窓を慕いつつも再び母校に還ることのなかった友の幽魂を追悼してその求学の精神を追懐して茲に殉難涙痕の碑を建立する

昭和十七年・十八年度入学生一同

なお碑には1943(昭和18)年6月11日に、大和町で勤労奉仕中に飛行機墜落事故に遭遇して死去した平川芳行君の名前も刻まれている。その横の碑(写真右)に、内田康男校長は下記の追悼の言葉を捧げている。

眉もすずしき紅顔の動員学徒よ  
君は猶生き続けたり  
幻の若き姿をそのまゝに



1948(昭和23)年に同校を卒業した西村聡淳氏の著書『殉難の日』(梓書院)は、このいたましい殉難を記録した労作である。

## 賛助金のお振込方法

- ① 同封の郵便振替用紙で送る
- ② 銀行振り込みで送る場合

三井住友銀行（銀行コード0009） 鶴見支店（店番号572）  
普通預金 口座番号7329411 口座名＝伝習館東京同窓会

いずれの振り込みの場合にも○回生、または卒業年度をお書きください。通信欄には近況、会報へのコメントもどうぞ。

### ◆賛助金のお願い

伝習館東京同窓会は会費制をとらず、会員の皆様の篤志である賛助金により成り立っています。東京同窓会に集まる賛助金は東京同窓会会報の発行、会員への通信、総会・親睦会・交流会の開催などの経費に使用されており、皆様からいただく賛助金が東京同窓会の運営を支えています。1口2000円から何口でも結構です（半口1000円でも受け付けています）。同封の郵便振替用紙にて送付いただき（付いてない場合は送り先、別記）、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



事務局は以下の通り。  
〒230・0073 横浜市鶴見区獅子ヶ谷1・9・1白谷方  
伝習館東京同窓会事務局 ☎045・581・8193（兼FAX）

## 広告募集

### チラシ広告

対象Ⅱ東京同窓会会員向けに製品・商品・営業内容などをPR、販売したい方。  
○チラシ二千部を作成し（フォーム自由）事務局宛送付下さい。  
会員への会報送付時に同封郵送します。  
○広告代金Ⅱ一件につき貳万円を賛助金として頂きます。  
別途に名刺広告も募集します。  
会員の皆様からも、希望業者の方をどしどしご紹介下さい。

## 募集中！

1. 表紙絵・表紙用写真
2. 原稿Ⅰ伝習館OBならダッデンヨカバンモ  
○テーマ自由（同窓会報にふさわしいもの。審査あり）  
随筆・詩・短歌・俳句・川柳、絵画・写真・書など  
○字数制限なし・原則※常識的範囲で（原稿用紙使用、またはワード原稿をメールで送付）  
写真・絵・カット添付可  
○表題・投稿者氏名・卒業回か卒業年度を書いて下さい。  
※原則10月20日〆切（早め歓迎）

—原稿送付先—  
〒153・0051 目黒区上目黒3・21・19  
伝習館東京同窓会会報局 北島 正常 行  
E・mail・anc54684@nifty.com  
☎・FAX 03・3713・6775  
携帯 090・5532・0323

伝習館東京同窓会 = Facebook

○編集委員は以下の通りです。  
北島正常（編集長、高21）  
内山秀生（高10）  
永倉（跡部）素子（高10）  
高果和登（高20）  
西原正道（高21）  
池上英次（高35）  
下河敏彦（高41）  
白谷政則（高21）  
副会長 梶島正司（高16）  
原田（立花）万紗子（高13）  
発行責任者 白谷政則

○過去の21号までが見られる「Facebook」伝習館東京同窓会会員限定共有情報」を設けました。現在、グループ会員のみ限定ですが、以下のアドレスに承認申請すれば、グループに入れます。  
denshu-tokyo-jimu@googlegroups.com

○令和3年も新型コロナウイルスに支配され、歴史的祭典・TOKYO2020+1五輪もパリンピックも無観客でどうにか開催にこぎつける始末。また東京同窓会総会は2度目の延期に、柳川の伝習館大同窓会は総会のみ規模縮小で行われました。今回の会報も、同期会報告の「学年だより」はゼロ、「先輩・後輩より」のみの構成となりました。その中でも小野前会報編集長（高2回）と伝習館高2年の大橋君の70歳の差を超えた交流（トノボの生態観察）は特筆もので、巻頭に取り上げました。微笑ましい話で伝統校ならではの良き一面を彷彿させます。41回生の下河敏彦君は母校を訪問、現役生・部活後輩の様子、木庭教諭や葉玉千賀子館長との話を伝えています。明けて今年はずべてが動き出しそうな気配が。皆さん、会報への投稿、または賛助金（郵便振替票）の短信用で近況をお寄せ下さい。（北島）

### 編集後記

伝美ギャラリー



「紫陽花」  
高5 岸 洋子



「薔薇」  
高5 岸 洋子



「六騎神社」(矢留大神宮)  
高17 浦川邦憲

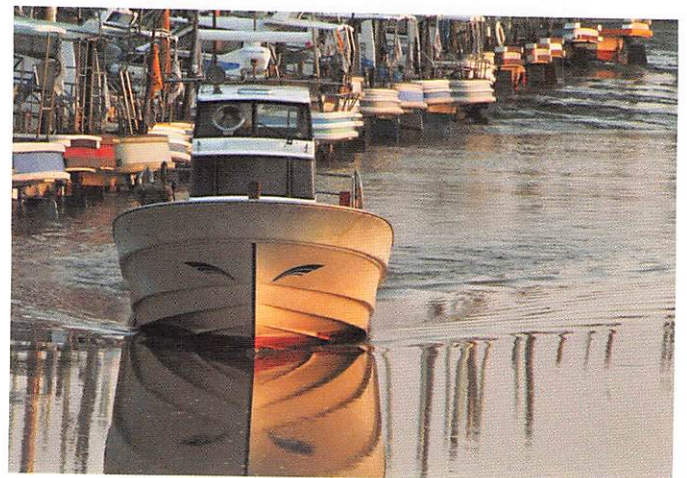
壇ノ浦敗走後、平家の武者六騎が落ちのび、沖ノ端にたどり着いた。その一人、平高矩(のち浦川姓を名乗る)がわが家の先祖と伝わっています。先祖を祭る神社でスケッチしました。



「混沌」  
高22 東谷弘子  
第55回女流画家協会展 記念賞



「双頭蓮」  
高14 高木節子



「沖ノ端 大漁の帰港」  
高12 石塚武美



「糸島深江湾の秋の夕景」 (高 13 原田万紗子)



facebook = 伝習館東京同窓会  
**伝習館東京同窓会事務局**

〒230-0073 横浜市鶴見区獅子ヶ谷 1-9-1 白谷方  
TEL 045(581)8193 FAX 兼用